≪ B 隊 ≫

〔 第 1 班 〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
岩手県立盛岡南高等学校	岩手県	千葉 真英	藤尾 萌菜	佐々木 奈那	谷藤 恵梨花	佐藤 七海
茨城県立水戸第三高等学校	茨城県	梅原 郁夫	濱田 百合絵	小野 友香梨	豊田 遥香	大津 智美
福井県立藤島高等学校	福井県	佐々木 規彰	加藤 寛佳	林 菜々子	竹内 南優紀	中橋 風香
三重県立神戸高等学校	三重県	岸田 誠司	酒井 夢果	紋田 栞里	坂井 好	村上 優奈
愛媛県立松山南高等学校	愛媛県	河野 幸次	越智 真菜美	濱田 鈴	神野 花歩	若狭 百香
宮崎県立宮崎大宮高等学校	宮崎県	村岡 俊雄	肥田木 友美	玉井 千裕	高見 陽菜	杉本 カンナ

〔 第 2 班 〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
福島県立安積黎明高等学校	福島県	菅野 俊樹	菅原 千慧	岡部 瑞穂	佐藤 桑	西間木 円香
山梨県立甲府第一高等学校	山梨県	小宮山 隆	深澤 蕗	秋山 瑛美	一瀬 智加	間 美也子
新潟県立新潟中央高等学校	新潟県	斎藤 敦史	二橋 理紗	中川 結衣	尾脇 早英	宮澤 陽
兵庫県立西脇高等学校	兵庫県	吉田 佐代子	藤本 真里奈	森脇 万由子	遠藤 由子	畑 百香
広島市立基町高等学校	広島県	小茂田 由美	浜本 美帆	原岡 優子	中原 一葉	神埼 夏
熊本県立人吉高等学校	熊本県	濱近 大輔	上野 聡美	植野 維	脇山 怜	吉永 飛鳥

〔 第 3 班 〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
山形県立鶴岡北高等学校	山形県	河口 昭俊	皆川 明香	鶴巻 央寧	太田 真実	本間 日南子
神奈川県立麻溝台高等学校	神奈川県	伊勢 遼	秋山 みやこ	今井 緋香里	田制 優美	髙橋 怜
岐阜県立飛騨神岡高等学校	岐阜県	中村 裕征	杉山 聖	林 実香	木下 遥	下嶋 梢
香川県立善通寺第一高等学校	香川県	玉垣 光伺朗	元木 利咲	山内 夏南美	杉峯 亜里紗	横田 萌恵
長崎県立大村高等学校	長崎県	光富 英輔	稲田 楓	原口 奏子	中田 未来	岳野 香

〔 第 4 班 〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
秋田県立大曲高等学校	秋田県	後藤 直地	小西 可南子	板垣 結子	佐藤 由里子	津嶋 知佳
東京都立工芸高等学校	東京都	斎藤 俊博	岩崎 史歩	倉金 未来	佐藤 翔子	戸田 有南
新潟県立長岡大手高等学校	新潟県	川上 豪	田井 愛実	山田 里沙	黒田 ちづか	米山 美菜
和歌山市立和歌山高等学校	和歌山県	林 靖之	仲前 心晴	松本 梓穂	広瀬 絢	棗 菜穂
島根県立出雲高等学校	島根県	冨田 一志	川上 知夏	角 智春	今岡 歩	石堂 みのり

〔　第　5　班　〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
青森県立八戸高等学校	青森県	上野　元嗣	舘前　知世	西村　優	近藤　碧海	田野岡　桃子
栃木県立真岡女子高等学校	栃木県	荒井　徹	廣沢　亜希	壁田　舞	野澤　遥香	青柳　美樹
静岡県立富士宮西高等学校	静岡県	難波　利行	後藤　優稀	望月香菜子	青木　麻優	中里　春香
鳥取県立鳥取西高等学校	鳥取県	若林　安徳	寺垣　沙織	大庭　莉奈	安陪　梨沙	井隼　菜々子
大分県立竹田高等学校	大分県	脇　雄治郎	一宮　未晴	國廣　愛理	古嶋　天	吉岡　里紗

〔　第　6　班　〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
宮城県仙台三桜高等学校	宮城県	蘓武　康明	叶　茜	阿部　智江	金本　小波	相原　瑛里香
埼玉県立浦和第一女子高等学校	埼玉県	宮内　譲志	小川　萌菜	松田　千陽	小川　絢美	佐々木　梨奈
石川県立七尾東雲高等学校	石川県	出村　豊	宮本　美帆	霜出　有希	島田　優里	清水　聖子
京都産業大学附属高等学校	京都府	鎌原　伸博	三浦　明	門谷　朋美	池田　悠	宮本　さなえ
山口県立防府高等学校	山口県	大堂　ひとみ	田中ともみ	沖田　成美	浅原　美里	為水　美帆

〔　第　7　班　〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
群馬県立高崎女子高等学校	群馬県	八木　茂之	松岡　奈津美	宮川　あかり	城田　曜子	小林　佳奈
長野県松本県ヶ丘高等学校	長野県	宮澤　豊	横山　葵	村上　智水	小澤　夏子	眞島　千晴
徳島県立城ノ内高等学校	徳島県	宮本　拓	武田　真帆	島田　佳南里	出口　優希	真鍋　はるか
鹿児島県立鶴丸高等学校	鹿児島県	宮永　治	市村　優海	北村　咲子	牛垣　里奈	川井田　彩圭

〔　第　8　班　〕

学校名	都道府県	監督名	リーダー名	選手名		
北星学園女子高等学校	北海道	西　千秋	竹谷　未来	中村　マリア	榮　みやこ	麻田　涼子
千葉県立幕張総合高等学校	千葉県	関　研一	田中　美和	工藤　和恵	伊藤　万緑	植草　美季
愛知県立旭丘高等学校	愛知県	服部　誠	木本　百合子	中村　寧子	小口　澄香	小木曽　愛
就実高等学校	岡山県	高橋　啓	黒川　友貴	竹内　杏奈	赤木　那奈	三尾　祥
福岡県立修猷館高等学校	福岡県	佐々木　英治	竹内　奈々実	遠藤　里佳	津田　彩花	小山　里佳子

Ｂ隊１班　岩手県　盛岡南高等学校

今回、私たちは９年連続でのインターハイ出場となりました。昨年度の青森での大会では先輩達が２位という高成績を残しました。なので、周りからの期待に対するプレッシャーがとてもありました。昨年のインターハイの時、先輩達と一緒に練習を重ねてきた私達は先輩が届かなかった優勝を果たしたいと思い始めました。

７月に入り、インターハイの予報が届き、本番へのカウントが始まりました。リーダーの私と後輩の２人は昨年 10 月に一度新潟でコースの下見に来ていたので、それを思い出しながら、またそれ以外の２人はどんなコースか想像しながら予報を読み進めていきました。７月の後半にはレギュラー４人と後輩３人と一緒に新潟に合宿練習に入りました。昨年は青森ということもあり、隣の県だったので、６月後半から何度も練習しに行くことができましたが、今年は片道８時間ということもありなかなかそういうわけにはいかず、大会までに山に入れる回数は限られていたので一回一回に集中しました。苗場山コースでは練習でも本番でも山頂で天気があまり良くなかったのでちゃんとした池塘を見ることはできなかったのですが、本当に山頂とは思えない所でとても感動しました。さすが、愛されている山だなと思いました。平標山コースでは、最初の登りはきつかったけど一ノ肩の前の階段にあるお花畑は最高です。どんな疲れもふっとびました。平標屋山の家での水も冷たくておいしかったです。三国峠コースも登りの坂がきついのと三角山から三国峠までの４つのピークを越えるのが大変でした。三角山から三国峠に向かう途中、右にはプリンスホテル等が見え、左にはたくさんの山が見えとても景色が良かったです。幕営では、幕営地の土の質がとても硬いということでアルミペグから鉄ペグに変えました。今まで６分足らずで設営できていたのが初めて練習した時、10 分以上かかったのです。本当にあせりました。不安を消すために何度も練習しました。

８月７日、いよいよ大会がスタートしました。昨年、先輩の練習についていたとはいえ、メンバー全員、大会に出るのは初めてだったので戸惑いがたくさんありました。審査の曖昧さが気になったけど、これが登山の大会なんだなと思いました。何よりもこの大会で大きく感じたのは多くの人に支えられているなと思いました。解団式の時本当に感動しました。ありがとうございました。

Ｂ隊１班　茨城県　水戸第三高等学校

今大会は、私が登山大会の選手として出場する最後の大会となりました。そして、私にとっては初めてのインターハイでした。新潟県といえば、「米」と「スキー」ぐらいしか思い浮かばなかった私ですが、すばらしい山がたくさんあることをこの大会で知ることができました。大会中の苗場山は残念ながら霧の中でした。しかし、霧の中の高山植物は下見の時の様子とは違って、とても鮮やかに咲いていました。晴れた日の苗場山もいいですが、霧の中の苗場山も幻想的でとてもきれいでした。そして、今大会 2 日目に登った平標山。私の一番好きな山になりました。松手山から平標山頂へと続く稜線は最高でした。高山植物も咲き乱れ、メインザックを背負っている苦しい状況でも目を奪われるほどの美しさでした。今度登るときはサブザックでゆっくりと登ってみたいです。3 日目の三国峠は、大会の中で一番気温が高い日でした。日が照りつけ、風も少ししか吹かない中、仲間とともに励まし合いながら登りました。

大会期間中は天候に恵まれて、本当にすばらしい登山行動を行えたと思います。結果は思い通りではなかったけれど、私は茨城県代表として、新潟県の山を登り、その一つ一つの山を楽しむことができました。何よりメンバーが怪我をせず、元気に大会を終えただけで私は満足です。この 3 年間山岳部として活動してきたものをインターハイという大舞台で出しきれたので心残りはありません。3 年生の女子部員は私だけなので、私は来年の出場はありませんが、今回一緒に出場した後輩たちは、今大会での経験を日々の練習に活かし、きっと来年にはもっとすばらしい選手になっているはずです。

最後になりましたが、今大会を影で支えてくださった役員の方々ありがとうございました。幕営値での出発時での見送り、到着時の拍手、とてもうれしかったです。みなさんの心遣いが私たちにとって大きな心の支えになりました。本当にお疲れ様でした。

（濱田　百合絵）

Ｂ隊１班　福井県　藤島高等学校

今回、私は２度目のインターハイでした。去年は１年の私が１人、他３人は３年生の先輩で、今年は全員 2 年生のメンバーで大会に臨みました。去年は足を引っ張らないように気をつけていましたが、今回は私が他のメンバーを引っ張っていかなくてはと思いました。しかし、実際は私が他のメンバーに色々と助けられ、心の支えとなってくれました。本当にみんなに助けられ、メンバーの大切さを学べたと思いました。

（加藤　寛佳）

初めてのインターハイはすごく刺激的でした。全国から集まったチームは本当に個性豊かで、登山行動の面でも、人間性の面でもすごく勉強になりました。インターハイに出場しなかったら絶対になかった出会いなので、出場できて本当に良かったです。良かったと思えるのはこのメンバーがいてくれるからで、本当に感謝しています。とても尽力して下さった先生方に恩返しできることを信じて、後は結果を待つばかりです。

（林　菜々子）

部活に入って１年も経っておらず、体力もなく経験も少なくて不安でいっぱいでした。記録書は点数が高くプレッシャーがかかってました。周りの皆や先生がしっかりサポートしてくださり本番は自分の力が出し切れたと思います。体力については周りの皆に迷惑をかけてしまいましたが、気象テストでは１問不正解、記録書は満点という結果でした。皆さんに支えられて私はとても感謝しています。今度は私が支えられるように努力したいです。

（竹内　南優紀）

初めてのインターハイはすごく不安だった。自分が他のメンバーよりも体力がないことはあきらかだったし、正直迷惑をかけてしまうのが一番嫌だった。しかし本番では何とか前の人に最後までついていくことができ、自分もチームの一員として役に立てたと思う。医療のテストは、満点がとれず悔しかった。前任の先輩のように来年こそは満点をとりたい。今回の大会で自分は体力の面でも心の面でも成長できた。メンバーや先生方に頼りっぱなしだったかもしれないけれど、私はこのメンバーで大会に出れたことが、本当に良かったと思う。先生方のサポートに感謝して、あとは結果を待とうと思う。

（中橋　風香）

Ｂ隊１班　三重県　神戸高等学校

「優勝は…神戸高校！！」と言われたのは数か月前。まさかの出来事でインターハイ出場の権利を手に入れました。私以外のメンバーは全員１年生だったので驚き２割、嬉しさ３割、不安５割といったところでしょうか。とにかく不安で仕方ありませんでした。予選では、設営もできていないところがあったし、何より体力がありませんでした。足をどんなに必死に動かしても前の高校に追いつかなかった悔しさ…どんなに自分が情けない！！と思ったことか。この悔しさをバネにしてインターハイに向けて頑張りました。

そしてついにインターハイへ！！１日目、壮大な開会式が始まり、テストでは今まで勉強してきた成果を出しきることができました。そして、幕営地に到着し、緊張した設営、とてもおいしくできた炊事審査が終わり就寝。２日目には、苗場山へ。はじまるなり急な登りがはじまり不安になりましたが山頂につくことが出来ました。ガスがかかっていて、正直どうせ景色は見れないだろうなぁと思っていたら…びっくり仰天。たまげました。逆にガスがかかることにより神秘的な風景が広がっていました。まるで妖精の住家の様で、心が惹かれる半面、少し恐ろしくもありました。下山にはドラゴンドラを利用し、山登りにきてゴンドラに乗れるなんて！！とメンバー一同空の散歩を楽しみました。３日目の平標山ではメインザック行動だったので不安でしたが、無事に全工程を歩きました。森林限界を超え、新潟の山々の山並みを見ることができ、とても綺麗でした。平標山山頂までの木道では苗場山のお花畑に負けないくらいの花が咲き乱れ、美しく、こんな地上から高い場所に咲く花を見てたくましく感じました。

インターハイを終えて、やっぱり山登りは大変だと改めて気付かされました。足を止めたいけど止められない…。その辛さに泣きそうになります。けれど、山にはそれに負けないくらいの「何か」があります。その「何か」は人によってとらえ方

は違います。ハッキリしたものもあれば、ふわふわしたものもあると思います。その「何か」を掴む為にこれからも私達は山に登るでしょう。そして私は、あの平標山で見た花のように強く、たくましく、美しくなりたいと思いました。本当にこんな良い体験をさせて頂き、ありがとうございました。

Ｂ隊１班　愛媛県　松山南高等学校

私たちは、このインターハイで多くの経験をし、また今後の課題を見つけました。設営審査では気の緩みから軍手の未着用や張り綱に引っかかるなどのミスが目立ちました。二回目の審査ではアルミのペグが折れるという予想外のハプニングが起こり、その場で対応することが出来ませんでした。突然の出来事に臨機応変に対応できるようにすることが今後の課題だと思いました。日々の設営練習を集中して行い、経験を積んでいき何が起こっても満点が取れるようなレベルに達することが出来るよう努力していきたいです。

地点確認の審査では経験値の低さと集中力のなさで点を落としてしまいました。急登やメインザック行動中に頭が下がり地点確認が遅れてしまいました。私たちの課題は体力面だということを痛感しました。体力をつけることで余裕のある行動ができ、定点確認を正確にできるようになると思います。まだ自分たちは全員１年生なので残り２年間体力トレーニングを重ね、強くなりたいと思います。記録書では県大会や四国大会と比べ、書くことが増えたので大変でした。

全員１年生ということで経験が少なく他校の選手のように上手く登れず転んだり躓いたりの繰り返しでした。１日目・３日目の登山ではサブザック行動ということもあり、あまり体に負担がかかりませんでした。苗場山ではガスのため景色が見渡せませんでしたが、貴重な経験が出来ました。しかし２日目の登山ではメインザック行動だったので肩や腰への負担が大きくとても苦労しました。今後の課題としてメインザック行動にも耐えられるような体づくりをしていき、インターハイで学んだことを活かしていきたいです。

今回の大会で私たちは数多くのことを学びました。特に今回まで大会で当たり前のように出来ていたことでも、インターハイという大きな舞台となれば、緊張やプレッシャーで完璧に出来なくなってしまうということです。そんな自分たちの未熟さがよく分かりました。あと２年間続く私たちの登山生活の大きな一歩となる貴重な経験となりました。こんな経験をさせて下さった河野先生を初めとする顧問の先生方、松山南高校登山部のみなさん、本当にありがとうございました。

（越智　真采美，濱田　鈴，
神野　花歩，若狭　百香）

Ｂ隊１班　宮崎県　宮崎大宮高等学校

今回私たち宮崎大宮高校は初めて全国大会に出場しました。三日間の登山行動も初めてで、最後まで登りきれるか不安でした。それでもやれるだけのことは頑張ろうと４人で準備してきました。計画書作成の途中で概念図や断面図を描いているとその山の大きさに驚くとともに、正直うんざりするほどでした。部員全員が 2,000mを超える山には登ったことがなく皆の気持ちもどこまで持つのだろうと困惑しましたが、その一方で今まで見たことのない高山植物への期待もありました。

いよいよ開会式となり、ようやく全国大会という自覚を持ちました。４６都道府県の選手・監督・大会役員の多さに圧倒されっぱなしでした。

幕営地ではスタッフが拍手で迎えてくれ嬉しかったのと同時に気が引きしまりました。幕営地での生活は快適でした。スタッフの配慮のもとでサンプリングやゴミの処理などあらゆる面での支えがあり三日間不快な思いもすることなく過ごせました。また幕営地の水くみ場の水は冷たくておいしかったです。しかしテント設営に関して少し戸惑いました。地面に石があり、ペグがなかなか入らず、曲ったペグもありました。その点に関しては不公平なのではと思いました。

７日からの登山行動はやっぱり厳しいものでした。1 日目の苗場山はお花畑の後の雲尾坂がきつかったし、2 日目の平標山は下りの木の階段で足が震え気力も体力も限界でしたが、お風呂のおかげで頑張ろうという思いがなんとかつなぎとめられました。3 日目の三国峠のコースは日照りが強くむしろ 1 日目や 2 日目よりも疲れました。しかしこの３日間を振り返った時、どの山も素晴らしい景色と美しい花が咲いていて厳しい中で

も登山を楽しむことができました。

私たち選手が快適に安全に登れたのは様々な人のおかげだと思います。Ｂ隊１班班長の篠原さんと副班長の江花さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。今回の大会で学んだことを次の大会に活かして、また全国大会に出場できた時にはもっと上を目指してがんばっていきたいです。

Ｂ隊２班　福島県　安積黎明高等学校

私たち安積黎明高校し～ずん部は、6 月に行われた福島県大会を終えてからこれまでの二ヶ月間、インターハイへ向けてさまざまな準備を重ねてきました。まず、メインザック行動時の軽量化をはかるために全面的に装備を見直し、揃えました。その後で詳細なスケジュールを立て、装備、フードプラン、計画書、医療など、各係ごとの準備が始まりました。大会に参加する私たちはもちろん、後輩達の力も借りて、部活動をあげて行ってきました。県大会までとは大きく異なり、計画書の作成一つとっても断面図や概念図を作成するための地図の精読、距離の測定などきめ細かい作業の連続でうまく進まないこともしばしばありました。体力トレーニングに関しては、学校の階段をメインザックを背負って走り込んだり、ペースを変えながら隊列を乱さずに歩く練習など、新しいメニューも考えて取り組みました。また、週末には近隣の山々に強化登山へ出かけました。福島県を代表する山である吾妻連峰、そして福島、山形、新潟の三県にまたがる飯豊連峰を二泊三日で縦走しました。雑誌「ワンダーフォーゲル８月号」にて東北の天国、緑の楽園と賞される飯豊連峰の緑の稜線と一面のお花畑は忘れることができません。

８月に入って迎えたインターハイ本大会。初めて全国大会に臨んだ私たちは、まずその規模の大きさに圧倒されました。開会式や他県の選手団の雰囲気がとても刺激的でした。

いざ入山して登山行動が始まると、あっという間に大会が進んでいくように感じました。

登山行動１日目、雲尾坂を登り切って不意に視界が開けて広大な湿原が続く苗場山の山頂に着いたとき、心の底から感激しました。苗場山コースの終点であるドラゴンドラにたどり着き、サンプリングでいただいた水は冷たくてとても美味しかったです。チームメイトのみんなも充実感と今まで見たことがないくらい素敵な笑顔にあふれていました。

２日目、３日目の平標山、三国峠コースでもきれいな高山植物にたくさん出会い、楽しく山歩きができました。

大会では、今まで準備してきたことを出し切ってベストを尽くせたと思っています。しかしながら、各個人でも、チーム全体でも反省点と学ぶ事がたくさんありました。上位校と大きく差がついてしまったのは歩行技術、装備点、そしてテント設営でした。今回学んだことをしっかりと後輩達に伝えて行きたいです。

私にとって最初で最後のインターハイは本当に楽しいものでした。保刈班長さんをはじめ大会でお世話になった役員の方々、学校出発の朝に見送ってくださった校長先生はじめ担任の先生、部員のみんな、いつも支えてくれた私の家族に心から感謝したいと思います。

そして最後に、チームメイトの瑞穂、桑、円香、本当にありがとう！

（菅原　千慧）

Ｂ隊２班　山梨県　甲府第一高等学校

今回のインターハイを通して感じたことは山は誰に対しても平等であることです。つまり自分一人だけが登っても辛い目に遭うのではなく、皆でその大変だったことを共有することができるのです。言葉で相手の事を励ますこともできると同時に、その痛みも自分が経験したからこそ理解できるということ。このようなことはなかなかできることではありません。他にも全国から集まった志の高い仲間を見て、自分自身をレベルアップさせる良い機会となりました。このような素晴らしい経験ができたことを山や仲間、先生やその他の人達に感謝したいです。

私達は今回の大会の為に下見山行を行いました。下見では霧で景色がほとんど見えずとても残念に感じていました。しかし、大会本番では天気に恵まれ平標山や仙ノ倉山まで見渡すことができました。新潟県の素晴らしい山々は景色を楽しませてくれるだけでなく、皆で登る登山の楽しさ、清々しさを教えてくれました。反省すべきとこ

ろ・このままさらに伸ばしていきたいところを再確認した今大会をこれからの自分たちの精進に大いに活かしていきたいと思います。

甲府第一高校の山岳部女子は、今年初めてインターハイ出場を果たしました。私は、この素晴らしい年に入部し、新潟県の山々に登ることができ、とても思い出に残る夏休みになりました。さらに、登山活動をすることによって、普段の生活がどれほど便利なのかを実感することができました。苗場山の池塘や平標山のお花畑、三角山の峠道の美しい景色を眺めながら、仲間と励まし合って楽しく無事に登ってきたことが印象的です。そして、もっとたくさんの人に山の良さを伝えていきたいと思います。

行動の最終日、解団式で設営隊長さんが、山に登る人は“優しい心”を持っていると言っていました。その話を聞きながら、今回の大会で自分は一体どうだっただろうかと思い返していました。登山行動中や炊事の時、朝の準備の時など、少し自分のことで精一杯になってしまった場面が多かったかなと、感じています。この反省点は、今回の大会で気づけたことです。私には、あと二年山岳部として活動する時間が残っています。自分なりに時間を大切にし、山と向き合う機会を通して自分を成長させていけたらいいなと思います。そして、“優しい心”を持てるようになりたいです。

Ｂ隊２班　新潟県　新潟中央高等学校

初日。開会式が行われた。湯沢の子どもたちによる演技。素晴らしかった。その後、代表の方々のお話があり、筆記テストがあった。初めて見る他県の人々やテスト前の重たい空気により緊張は頂点に達していた。テストの出来に不安を覚えつつもバスで幕営地へ移動。設営隊の人たちに温かく迎えられ、設営審査が始まる。自分たちの設営場所がなかなか見つからず、とても焦った。設営では、筆記テストよりも緊張せず落ち着いて出来たと思う。設営の審査がされている間、交流会があった。新潟から近い所から遠い所までいろいろな県の人たちと交流ができて楽しかった。交流会の後は、炊事審査があり一日が終了した。

二日目、苗場山への山行。最初のかぐら第一高速リフト降り場まではチーム行動であった。前にどんどんと進もうとするパーティーにプレッシャーを感じつつ、自分達のペースで歩くことができた。その後の班行動では霧がかった天候であったものの、中ノ芝やお花畑でのワタスゲやシモツケソウ、ミヤマシャジンなどの高山植物が咲き乱れとても美しかった。山頂では残念ながら霧雨で湿原の全てを見渡すことはできなかったが、霧の中の湿原もまた趣深かった。下山時のドラゴンドラでは全長５４８１ｍの空中散歩を楽しむことができた。

三日目の平標山はメインザックでの山行だったが、日々の練習の成果もあって順調に登ることができました。松手山からの稜線歩きは天候にも恵まれて素晴らしい景色を眺めることができた。一ノ肩に向かう登りは少しきつかったが、ハクサンフウロやミヤマアキノキリンソウなど色とりどりの花が咲いていてとても綺麗だった。二日目に登った苗場山も見ることができて気持ちよい登山を楽しめた。

四日目の三国峠はサブ行動であったが、初めの急な登りは暑い日差しとともに私たちの体力をうばい苦しめた。三角山を過ぎてからは、稜線に出て展望が良くなり、自分たちが歩いてきた道のりを見ることができた。三国山をトラバースしてからの階段は、吹き上げてくる風が心地よく、風で揺れている花々も綺麗で印象に残っている。神社からの下りの砂利道は歩き疲れた足には少しこたえた。しかし、登山口まで無事に着くことができ、三日間の登山行動を終えて充実感を得た。

Ｂ隊２班　兵庫県　西脇高等学校

私たちが県大会で優勝し、全国大会を決めてから２ケ月になります。

短いようで長かったこの２ケ月間は忙しかったですが、とても充実していたように思います。

私たちの同好会はまだ発足したばかりで、部費も装備も何もない状態でした。

しかし、寄付を呼びかけたり、知人から装備品を譲ってもらったりして、なんとか大会の準備を整えることができました。体力の面では、毎日近くの矢筈山に登って鍛えた成果もあり、大会本番でとても疲れるということはありませんでした。しかし、体力点で減点されていたので、もっと強化していきたいと思っています。

幕営審査では、今までギリギリまでかかって立てていたテントを、大会本番では５分半で立てることができ、みんなで喜んだのを覚えています。テントは呼びかけた寄付で買った物なので傷めないようにとたくさん練習できなかったので不安でしたが、うまくいってよかったです。

炊事審査では、今まで挑戦したことのないメニューをやってみたりして、とても有意義なものになりました。計画帳は大会前日に概念図や断面図にミスが見つかり、リーダーの先輩を中心に夜遅くまで修正してなんとか間に合わせることができました。

すべての審査において今まで私たちがしてきた準備で足りているのか、とても不安に思っていました。また、自分がミスをすればみんなに迷惑がかかる、チームのひとりひとりがそんなことを思いながら大会に臨んでいました。ですが、純粋に登山を楽しんでもいました。

苗場山の雄大で美しい湿原。平標山の急な斜面を登った後の素晴らしい花畑。さすが、「NHK 花の百名山」に選ばれるだけのことはあるなと思いました。三国峠は昔、交通の要で、歴史上の偉人たちも私たちと同じ道を歩いたのかと思うと、少し嬉しいような気分でした。

どの山も私たちが今まで登った山の中で最も美しい山々だったと言っても過言ではないほど本当に素晴らしいところだったと思います。こんな経験ができるなんて想像もしていなかったので、この部活を始めて本当によかったとつくづく思っています。また機会があれば新潟に来たいです。この大会を通して学んだことは３つあります。１つめは協調性の大切さです。今回の大会では隊、班、チームそれぞれの行動があり、どの行動にしても協調性は切り離せない大切な要素でした。２つめは責任を持つことの重要性です。知識審査はもちろん、幕営審査や炊事審査においても、それぞれに役割があり、ひとりの責任の大きさを改めて実感しました。

３つめは準備がいかに大切かということです。私たちの準備のクオリティが結果に大きく反映されていると思います。より完璧な準備ができるように、これからも頑張っていきたいです。

最後に、全国大会に出場するにあたって、寄付をくださったり、装備品を譲ってくださった方々、ご指導いただいた顧問の先生方、温かく送り出してくれた友人、家族。お世話になったすべての方々に心から感謝の気持ちを贈りたいと思います。本当にありがとうございました。

Ｂ隊２班　広島県　基町高等学校

この大会を通して心に残ったことは二つある。一つ目は山から望む景色だ。今までは広島県内の山しか登る機会がなかったため、登頂した山といってもせいぜい 1000ｍであったが、この大会で登った山はほぼ 2000ｍと、倍に近かった。雲が目の前を通り過ぎてゆくのは不思議な感覚で、山頂から見下ろす景色は壮大だった。また、森林限界を優に越えているため、視界が開けており遠くの尾根を登っている登山者が見えることにも感動した。日本国内でも地域によって見られる景色は大きく異なり、新しい発見があることを痛感したのでもっと他の県の山にも登ってみようと思った。二つ目は選手たちだ。全国の人が一同に会する機会はなかなかない。あらゆる所からあらゆる地方の方言が聞こえてくるというのはとても興味深く、できれば全ての選手と交流会をしたかった。4 日間、同じ場所で過ごし同じ山に登り、苦楽を共にしたたくさんの山仲間ができたことに感謝したい。第 56 回全国高等学校登山大会。この大会をもって山岳部を引退できることを光栄に、そして誇りに思う。

（浜本　美帆）

高校生になり、始めた登山でした。初めて山に登った時に比べ、三年経った今では山に対する気持ち、そして見方が変化しました。様々な山を部活の仲間と登る中で培われたものは、自分自身の精神ののみでなく、絆やチームワークでもありました。今回の登山活動は普段の活動とは異なり、全国から集まった非常に多くの同世代の人たちと行動を共にするという貴重なものでした。これ程にも大勢で同じ行程を歩く経験をしたことは無く、この先もないと思います。

この３日間の行動は行動隊の方々の支援がなくては、不可能だったと感じています。常に連携を取り合い誘導して下さった方々のおかげで無事に長いルートも歩き切る事ができたと思っています。それだけでなく登山行動終了後も設営隊の方々に常に支えてもらい、サンプリングからごみ

の回収、トイレの管理等、隅々まで気を配って頂いたおかげで、私たちは気持ちのよい生活を送ることができました。この他にも、私たちを見守っていた多くの方がいました。今回の大会で登山は、身近な仲間のみでなく、普段は気付かない多くの人に支えられているのではないかと気付かされました。この先も、山々に登りさらに深く山のことを知りたいと思います。

（原田　優子）

Ｂ隊２班　熊本県　人吉高等学校

私は初めて全国大会に出場しました。一日目の苗場山では距離は長かったけど、頑張って歩ききることができて良かったです。二日目の平標山は、とても坂が急でしかもメインだったのでとてもきつかったです。途中リタイアしたけれどほぼ最後まで行くことができました。三日目の三国峠コースも途中リタイアしてしまったけど、まだ体力不足ということが分かり良かったです。他の県の学校の人達と交流ができてとても楽しかったです。とても楽しかったです。とてもいい経験になりました。

いきなり全国大会に行くことになってしまって不安がありましたが一日目のコースはなんとか登れて良かったと思います。しかし、二日目は、体調が良くなく、登ることが困難な足に途中でなってしまい、隊を離脱してたくさんの人の支えをいただくことになりとても申しわけなく思いながらコースの三分の二まで下山しました。三日目は二日目の時の足の痛みが治らず、登山前にも応急処置をしてもらったのですが、登山口前の通路で離脱することになりました。この大会ではたくさんの方々、チームに心から感謝できました。

私は今回の大会が高校生活最後の大会でした。３年間山岳部を続けてきて色々な事があったけど、たくさんの事を学びました。今回の大会で、チームが団結することの大切さを学ぶことができました。私たちは、登山行動２日目と３日目に途中でリタイアすることになりすごく悔しい思いもしたけど、それ以上に今までになかったチームの団結力が生まれました。その時支援してくださったお医者さん、看護師さん、支援隊長さん、自衛官の方々、班長さん、副班長さんには、本当にお世話になり、自分達はこんなに恵まれた環境で登山をすることができるなんてすごくありがたいなあと思いました。いつもなら気づけなかった設営をして下さった方、支援をして下さった方に対する感謝の気持ちを最後の大会で、気づくことができよかったと思いました。本当にありがとうございました。また、インターハイでは、全国の選手が集まってきていて、たくさんの県と交流することができました。私たちのチームが班を離れる時や、次の日に周りのチームの子達が優しい言葉をかけてくれて、本当に嬉しかったです。１年生はまだ大会があるので、たくさんの方に優しい言葉をかけていただいたり、支援をしてもらったことを忘れず、これからの大会に参加してほしいです。この大会は本当に感謝ばかりです。ありがとうございました。

Ｂ隊３班　山形県　鶴岡北高等学校

まずはインターハイの規模の大きさにとても驚きました。また、登山行動はもちろん、開会式・閉会式や諸テスト、設営など、あらゆることに対して細かに準備されていて、さすが全国大会と感心しました。このように準備・運営していただいた方々に感謝致します。

審査内容は私たちがこれまで出場していた県大会よりも多岐にわたり、大会直前まで準備や学習に追われました。あわただしく大会を迎えたこともあり、全国大会の雰囲気に呑まれていたこともあり、設営や炊事などでは焦ってしまい、いつもはできていたことが失敗したこともありました。そのため、あまり高得点は望めないだろうと思っていましたが、結果は２０位で、上位校と同じくらい得点できている項目もあり、とてもうれしく思います。

閉会式の日はたくさんのチームと計画書の交換を行いました。他校の計画書はそれぞれ創意工夫があり、とてもおもしろく、参考になりました。また計画書以外でも他校の工夫がいろいろなところで見つけることができたので、取り入れていきたいと思いました。

今回のインターハイでの経験は私たちの大きな自信になりました。まだまだ足りないところもありますが、しっかりと反省し、修正していきたいと思います。３年生が引退すると２年生２人だけになってしまいます。新入部員を入れて来年も

ぜひインターハイに出場してほしいと思います。　（髙橋　怜）

Ｂ隊３班　神奈川県　麻溝台高等学校

女子チームができて１年目のインターハイは、一言で言うと準備不足だと感じました。特に、私が担当した天気図と読図は満足のいく結果にならず、後悔しています。少し甘く見ていた部分もあるかもしれません。私は２年生なので、来年もＣＬをやると思います。今回できなかった事、悔しかった事、やり残した事を来年しっかりできるよう、チームをまとめ、また１からやり直して１年間努力していきます。

（秋山　みやこ）

一番記憶に残っているコースは平標山コースです。やはりメインザックだったということもあり、きつかった部分も多々ありました。ですが、登り切った後の達成感が大きかったのもこのコースでした。私はもう今後山に登るということは無いかもしれませんが、このインターハイで仲間とともに頑張ったこの４日間は大切な思い出です。

（今井　緋香里）

山岳部に入ってから今回のインターハイまでに登った山は、両手で数えられてしまうほど。経験も力も全てのことにおいて初心者のまま出場したインターハイは、心も身体も頭も追いつかず、ぐちゃぐちゃの状態。それでも自分のできる最大の力を使い、やり遂げたインターハイでした。重要なのは順位ではなく、どれだけ本気を出してインターハイに臨んだか。私はそう思っています。この考えを柱にし、来年の大分でもインターハイに行きたいと思っています。

（田制　優美）

私はまだ１年で経験も少なく、チームの人たちに迷惑ばかりかけてしまったかなと思います。インターハイでは、仲間を想う心や助け合い、チームワークを手にする事ができました。結果はまだわかりませんが、一番大事なのは結果でなく中身だと思います。まだまだ経験の足りない私ですが、これから色々な事に挑戦して成長していきたいです。

Ｂ隊３班　岐阜県　飛騨神岡高等学校

私はインターハイでつながれたと思えました。インターハイでは全国のみんなが集まるので、知らない人ばかりでした。初めは知らない人ばかりで戸惑う事もありました。でも、同じ場所でテントをはり生活することで、いろんな声掛けをすることが出来ました。山に登っているときにすれ違う時、お疲れ様です。とたった一言だけど、交わしただけで、繋がる事が出来たような気がします。インターハイという名の通り、戦う場ですがライバルでもあり仲間でもある事を感じることが出来て良かったです。

私は初めてのインターハイで、いろいろ不安な事もたくさんあったけど、新潟の山を楽しんで登ることができて良かったです。新潟の山を登るのは初めてで、どんな山なのか楽しみでした。三つ山を登ったけど、それぞれ景色が違って、新潟の山の素晴らしさを知ることができました。また、インターハイでは全国の登山部の人が集まるので、他の県の人とも話ができたし、たくさんの人数で山を登ることができて、普段はできないような体験ができてとても良かったです。

私は初めてのインターハイで色々な方々に支えられて、無事３日間を終えることができました。サンプリングの時、笑顔で飲み物を配って下さったり、１日１日疲れて帰ってくると、拍手でむかえて下さった設営隊の皆様、自衛隊の皆様、救護の皆様。三班をひっぱっていって下さった班長さん、副班長さん。毎日笑顔で見送って下さった顧問の先生。そして、辛い時も楽しい時も一緒に３日間を乗り越えた選手の皆さん。多くの方々のおかげで最初は辛いと思い込んでいた３日間が驚くほど早く感じられました。そしてこの環境に慣れて最後皆さんと過ごした幕営地を離れる時少し恋しくなりました。

私は今回のインターハイで自分はたくさんの人に支えられているんだなとすごく感じました。行動隊を始めとし、設営隊の方にもすごくお世話になりました。たくさんの人たちの支えのおかげ

で私たちは無事３日間を終われてよかったし、感謝のきもちでいっぱいです。あと私は二回目のインターハイで去年は一年生でわからないことだらけだったけど、今年はリーダーとして参加し、不安でした。だからここまでついてきてくれた皆にも感謝しています。テントで三泊というのは、慣れていない一年生にとっては、本当に大変だったと思いますが、よくがんばってくれました。

どんなに疲れていても、自分達で設営・炊事と、なにもしなくても食べて寝ることができる普段の生活とは全く別で、すごく貴重な体験だったと思うし、同時に普段当たり前のことにすごく感謝ができたと思います。私は皆の笑顔を見るとこの子たちを山につれてきて本当に良かったと思えます。この大会はどんな結果でも、１つの山を乗り越えた経験となるでしょう。私はやっぱり山が大好きです。

（監督：中村　裕征）

Ｂ隊３班　香川県　善通寺第一高等学校

○女子キャプテンとして初めて挑んだ今年の大会は、不安だらけで、無意識に自分をあせらせて逃げだしたくなることが何度もありました。しかしそんな時に普段は気付かない家族の温かさ、仲間との絆を再確認し、より自信を持つことができました。これで３回目の出場でしたが、毎年素晴らしい山容や、開催県の皆さんの支援もあって、すてきな思い出ばかりです。この３年間で得たものはとても大きかったです。これからも周りの環境に感謝しながら生活していきたいです。今回知りあったみんな、またイっしょにあそボう！

（元木　利咲）

○今回が初めての参加となる全国大会。下見と本番合わせて６日間も登るし、最後まで登りきれるだろうかという不安でいっぱいでした。でもなんとか登りきることができました。山行はしんどかったし、結果は 17 位だったけど、この４人でいるとしんどかった山行も忘れるくらい楽しかったです。はじめは 12 日間もあるなんて長いなあと思っていたけれど、あっという間でした。最後まで支えてくれた先生、ありがとうございました。

（山内　夏南美）

○今回のインターハイは、私にとって２回目、そして最後のインターハイでした。不安だらけで迎えたインターハイでしたが、今、振り返ってみると、とても楽しかったです。いろいろな県の方たちにたくさん笑わせてもらって、たくさん元気をもらいました。そんなみんなに支えられて、私はこの５日間を笑顔で終わらせることができました。笑わせてくれたみんな、そして何よりも、メンバーのみんな、素敵すぎる思い出を本当にありがとう。今回知りあったみんな、また、イっしょにあそボう！

（杉峯　亜里沙）

○昨年までと違って気候も涼しくて、大会を楽しむことができ、男女を問わず他県の選手と交流を深めることができました。幕営地ではスタッフの方々が、朝に出発する時も、夕方帰ってきた時も、変わらず拍手で応援してくれたことが、一番印象に残っています。大会をサポートしてくれた皆さんに本当に感謝しています。高校最後のインターハイが新潟で本当によかったです。

（横田　萌恵）

Ｂ隊３班　長崎県　大村高等学校

今回始めてインターハイに出場することになりました。知らないことも多く、今まで組んだことのないメンバーで大会に挑むことは、すごく不安でした。

入賞を目標にがんばってきましたが、大会当日までは本当に満足に行く結果が残せるのか、と考えていました。実際には入賞を逃し涙を呑んだわけですが、私は今大会で沢山収穫があったように思います。あの時私たちに足りなかったものが経験だったと言うなら、きっと、いや絶対。来年の大会では入賞を狙える筈です。私がそれに出れるかどうかは別として、次回があることに感謝しつつ、リベンジを果たしたい所存です。

行動隊・設営隊・支援隊の方々、支えてくださった多くの人に感謝しています。

（稲田　楓）

今回のインターハイ、私たちは７位と言う結果

でした。７位とはあと一歩で表彰台に乗ることができる順位なので、正直悔しかったし申し訳なかったです。この大会に出るにあたって部員のみんなからたくさんのサポートをしてもらったのになおさらでした。だから、もし機会があるなら来年実力と経験を身に付けて今年の結果を超えたいと思います。

大会の４日間はとても充実した濃い４日間でした。知識審査に始まり、設営と炊事は落ち着いて行えていたと思います。その際に、普段見ることのできない他の県の様子やチームの雰囲気を見ることができいい刺激になりました。登山行動では体力点が大幅に引かれてしまっていたため、さらに体力をつけていく必要があるなと思いました。他にもやるべき課題が見つかったので、次につなげたいと思います。また、新潟の山はとても景色がきれいでした。特に苗場山の頂上の湿地帯にある池溏やワタスゲは絶景で、登るたびに感動していました。インターハイで得た経験やあのきれいな山の景色も含めて一生忘れられない思い出になりました。大会役員、地元高校生スタッフ、新潟県の皆様ありがとうございました。

（岳野　香）

今回、インターハイに参加して設備が整ってるなと思いました。苗場プリンスの特設の幕営地は芝生で気持ちよかったです。サンプリングのおかげで思うぞんぶん飲み物がのめたし、トイレも十分な数ありました。

また、登山も安全に楽しくできました。これも大会役員の方々の綿密な計画のおかげだなと思います。過酷な環境の中でも、楽しく競技ができたというのはありがたいです。インターハイで学ぶことがたくさんあったので、きちんとこれからに生かしていきたいです。

（中田　未来）

今回、インターハイに出場して全国のレベルの高さを思い知らされました。県大会、九州大会とは違うところも多々あり、戸惑うこともありましたが、チーム一丸となって乗り越えることができました。

苗場山では小雨でしたが、試走の時は晴れていたので、また違った苗場山の景色を見ることができました。苗場山、平標山のお花畑はとてもきれいでした。三角山から見えた山々はとても美しかったです。

インターハイを運営してくださった皆さんのお陰で、笑顔の絶えない楽しい登山をすることができました。また、ここまでくるために支えてくれた先生方、部員のみんなありがとうございました。

今回のインターハイは反省すべきことがたくさんあったので、そこはしっかりと見直し来年のインターハイに向けて日々の練習に取り組んでいきたいと思います。

（原口　奏子）

インターハイ経験者もおらず、何か困ったことがあったら同じ班のパーティーのまねをするようにと伝えていました。監督が歩ききらないとチームもリタイアになるのでひたすらけがしないことだけを気をつけて歩きました。選手も監督も競技中は笑顔を忘れてしまっていました。監督の行動が、選手にも影響するものだとつくづく反省。競技が終わった後は、支援の自衛隊員の方の盛り上がった筋肉を触って感動したり、記念写真に収まり無邪気な笑顔をみてほっとしました。

苗場プリンスの幕営地は、芝で寝心地も良かったです。夜は寒いくらいでした。同年代と思われる設営隊長さんやコース隊長さんのお話には、諭されることも多く、度々目頭が熱くなりました。地元高校生を中心とする設営隊の皆様もゴミの分別等黙々としている姿には感銘を受けました。ありがとうございます。

（監督：光富　英輔）

Ｂ隊４班　秋田県　大曲高等学校

私たちのパーティーは、みな目標意識が高く向上心のあるパーティーだ。各々の精神力は強く、他者への配慮を忘れない。そんなパーティーでの今大会は、登り甲斐のある新潟の山々を舞台に集中力を持続させ、審査していただく者として賢明に取り組めたと思う。個々に思うところはあろうが一人一人、全力で責任を持ち役割を全うできたことは我々の誇りであり、今後の糧になるだろう。頑張りを讃えたい。立派な頑張りをありがとう。

私が登山部のつらさに涙することがあった時、その地点、地点で支えてくれたのは紛れもなく彼

女達だった。だからこそ、この節目に彼女達、家族、先生方、今まで関わってくれた人、景色、もの、すべてに感謝の意を示し、今後の飛躍を誓おう。そして、もう少し経ったらまたみんなに「山に行こうよ」とひと声かけてみよう。きっとみんなザックを背負って集まるに違いない。

（小西　可南子）

初めてのインターハイですごく緊張したけど、全国の強豪校のみなさんと戦うことができ、充実した４日間でとても楽しかったです。偵察で見ることができなかった苗場山のお花や平標山コース、三国峠コースから見渡せる山々の景色を存分に味わうことができてすごくラッキーだったなぁと思いました。三年間の最後にインターハイという舞台に立つことができて誇りに思います。また、楽しい時も辛い時も共にしてきた仲間たちやご指導して下さった顧問の先生方、いつも温かく見守って応援してくれた家族に感謝したいと思います。

（板垣　結子）

今回は２回目のインターハイという貴重な体験をされていただきました。去年とは違って今年は隊や班での行動がほとんどだったのでとても緊張したし、新鮮でした。しかも私たちの４班はすごく良い雰囲気だったので良い思い出になりました。また、この山で私たち３年生３人は引退なので、最後の山を全力をつくして、楽しく登れたことに、今までお世話になった人たちに感謝したいと思います。

（佐藤　由里子）

２年生での初めてのインターハイ、各都道府県から集まったたくさんの選手を見て緊張が高まりました。私は自分の役割に自信がなく不安でいっぱいでした。ミスしてしまったこともありました。そんな時、先輩方が励まし勇気づけてくれたので頑張ることができました。私が先輩方にお返しできたことは少しのことだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このチームで大会に出れたことをとても嬉しく思います。

（津嶋　知佳）

Ｂ隊４班　東京都　工芸高等学校

私たちにとって２回目のインターハイは前年度よりもより心に残った出来事がたくさんありました。自分たちが３年生になり、体力も一段と増えていて、山からの景色を十分に見ることができ、どれも心の中にしっかりと焼き付いています。また、いつも見守ってくださっていた係の方たちの温かさ、行った事がない遠くの道府県の選手たちとも出会えたこともこのインターハイがあったからこそだと思います。ありがとうございました。

（岩崎　史歩）

2 年目にして最後の IH は、これまでの部活動での積み重ねを実感するものでした。昨年 IH に初めて出場した際には、体力が足りないばかりに、競技中、チームのメンバーに多くの迷惑をかけました。しかし今回は、登山を楽しみながら元気に全ての競技に努めることができたのです。山登りはやはりとても楽しく、自分は山登りが大好きであることを再確認できました。そんな風に思える機会を与えてくださった、今大会に関わった全ての方々に心から感謝致します。

（倉金　未来）

わたしは去年より他のチームとの交流が出来たことがとても嬉しかったです。よくよく考えてみると「全国にいる山がすきな高校生の男女が４人ずつ集まっている」という、あまりにも不思議な空間で過ごしていたことに今更気づきました。普段なら数百キロくらい離れた所に住んでいる人と、朝の水汲み場で、歯を磨きながら「おはよう～」と挨拶しているのです。本当に生涯でもう経験できない体験だったと思います。本当に温泉もご飯もインターハイも最高でした。また新潟に来たいです。

（佐藤　翔子）

今回のインターハイで成長したことは体力面です。私はメンバーの中で一番体力が無く、いつもメンバーに迷惑をかけてしまいます。けれども、今回の大会では一度もバテることなく、新潟の３つの山をとても楽しく登ることができました。登山は大変で辛いことが沢山ありますが、今回の大会で改めて登山の楽しさを知り、山岳部に入っていてよかったと思いました。あといろいろな県の

人と交流ができ、充実し思い出深いものになりました。卒業後またこのメンバーで晴れの苗場山に登りたいです。

（戸田　有南）

Ｂ隊４班　新潟県　長岡大手高等学校

今回の地元開催のインターハイに出場できたことは貴重な経験となりました。各種テスト、設営、炊事は緊張することもなく、いつも通りの自分たちの実力を発揮することができたと思います。登山行動では、暑くなりすぎず快適に登ることができ、周りの景色、花々を楽しむことができました。苗場山は小雨でしたが、霧のかかった高層湿地も素晴らしかったです。私にとって最後の大会でしたが、高校生活一番の思い出に残る大会でした。

（田井　愛実）

初めてのインターハイで最初は不安や心配でいっぱいでした。けれど、始まってみると、緊張もなく落ち着いていつも通りの自分達を出し、全力でやりきれました。残念ながらメダルを獲得することはできなかったけれど、チーム全員で助け合い、全行程を無事登りきったこと、なによりみんなで山を楽しむことができたのでよかったです。長岡大手で新潟県の代表としてインターハイに出場したことをこれからの糧にして頑張りたいと思います。

（山田　里沙）

私たち長岡大手高校は、初めてインターハイという大きな大会に出場しました。インターハイでは三日間の登山行動をはじめとしたハードな日程でした。今回のインターハイは地元開催ということで、自分達の馴染みのある山への登山でした。無事四人がこの日程を乗り越えられて本当によかったです。結果は上位入賞には届きませんでしたが、今回の反省点を見直して、次に繋げていきたいと思います。

（黒田　ちづか）

今回のインターハイでは、様々なことに気づかされ、学ぶことができました。大会中にたくさんの人が運営に携わってくれたお陰で私たちが安心して登山できたんだと実感しました。感謝の気持ちでいっぱいです。また、私にとってこのインターハイは悔いの残る大会でした。反省すべき所がたくさんあります。この悔しい思いを次の登山から活かしきれるよう、これから努力していきます。最後に、顧問の先生方、ありがとうございました。

（米山　美菜）

Ｂ隊４班　和歌山県　和歌山高等学校

初めての全国大会と新潟県なのでどのようなものか楽しみにしつつ、一週間という長期間大会に縛られるのも初めてでしたので不安もありました。市立和歌山から参加するのは十何年振りだそうで、筆記テストが４つもあるだとか、顧問の先生もルールが変わっている等で大会の準備が大変でした。全国大会に出られるということでもちろん良い順位を目指して頑張りましたが、階段の下りはキツくフラフラになりながらも歩いていたらいつかは登り終わると自分を励まし、隊に遅れをとったのは申し訳なかったのですが、当初の目標通り完踏出来て良かったです。景色が綺麗だと仰っていましたが一日目は霧で観れず、二・三日目は観る余裕が無くとても残念でした。近畿大会も割りと大きい大会なのにそんなに人数が居らず、全国大会だと生徒だけでも大人数で、更に隊長、副隊長、自衛隊の方から医者の方まで関わった人数が半端ではなく、とにかく規模の違いに吃驚しました。

登山は人との関わりが醍醐味だと思っており、登山者と挨拶を交わすのが気持ち良く、今回の登山ではどのような人と出会えるのかなと楽しみにしていたりするので、このように大人数と関わっての登山が出来てとても良かったです。それから支援の方には大変助かり、地元の方の見送りには元気をいただきました。今回の登山は今まで以上にとても辛く大変なものでしたが、この辛さを経験したらちょっとやそっとしたことでは根を上げないでしょう。

辛さと同時にとても楽しく、高校生活ではこれが最後の登山となると思いますが、生涯の良き思い出となると共にこれからも生涯スポーツとして続けていけたらいいなと思います。

Ｂ隊　島根県　出雲高等学校

１年生で出場した時、一番後ろで先輩ついていくだけで何もできませんでした。そんな私がＣＬとなり高校最後のインターハイに出場できたことが、まずはうれしかったです。苗場山の山頂がガスっていたのが残念でしたが、３日間とも登りやすい天候で競技であることを忘れ、楽しみながら登ることができました。そして大学生になっても、年を重ねても、山に登りたいという思いと、３年間サポートしてくれた家族、顧問への感謝の気持ちは忘れません。

（川上　知夏）

北信越かがやき総体は、私にとって最初で最後のインターハイでした。全国大会を経験したことがないため、大会がはじまるまで、かなりの緊張と不安がありました。しかし、全日程を終えて新潟から帰ってきた今、夏を振り返ると、この登山大会は、私の人生においてとても重要な、心の財産となるような思い出をたくさん残してくれたことを実感します。地元では出会えないような壮大な景色を楽しみ、全国の高校生と交流し、パーティーのみんなと支えあった５日間は、感動の連続で本当に輝いていました。このインターハイに出場して、山を歩きながら考え学んだことをこれからにきちんと生かせるよう、将来に向かって頑張ろうと思います。

（角　智春）

私は、今回のインターハイで登った３つの山の中で２日目に登った平標山の急な坂道をひたすら歩くのがとても急で辛かったです。でも、その分パーティーのみんなでたくさん話をしました。山から見える景色もとても綺麗でした。私はまだ「山初心者」ですが、ほんのちょっとだけ山の楽しさを味わった気がします。これからものんびりゆっくり登山を楽しみながら、素敵な山ガールに近づきたいと思います。

（今岡　歩）

初めてのインターハイでとてもいい経験になりました。県総体では参加している高校が二校しかありませんでしたが、今回は約４０校の高校が参加していてたくさんの登山部（山岳部）の高校生がいたので不思議な感じでした。また、今まで続けて登山するのは二日間だけだったので、三日間登ることができるか不安でしたが最後まで登りきれて良かったです。今回のインターハイでたくさんの課題を見つけることができました。この課題をクリアしてこれからの部活動に生かしていけたらと思います。

（石堂　みのり）

Ｂ隊５班　青森県　八戸高等学校

今回初めてパーティーを組んだ八戸高校です。初出場だったのでインターハイの厳しさを知りませんでした。特に暑さと距離の長さが厳しかったです。

暑さの面では、一日目の苗場山が霧で気温が上がらず油断していたため、二日目、三日目の登山では、暑さで体力を消耗してしまいました。特に平標山はメインザックでの登山だったので、水分の消費も早く大変でした。三日目の登山は日影が少なく、気温が 30 度にも達し、その上、一日目、二日目の登山での疲れもたまっていたため、足が張ってしまいには歩くのが大変でした。

次に、距離の問題です。苗場山の標高は 2145 m、平標山は 1983m、そして青森県で最も標高の高い山は 1624mです。300mから 400mも違います。これだけ標高も違い距離も違うと流石に大変でした。それに、岩も多く急な場所も多かったため、途中で何度もバテそうになるほどでした。

しかし、このインターハイを通し、厳しさだけでなく山の素晴らしさも、今までより深く知ることができたと思います。

新潟の山は、青森県の山とは違い、360°山に囲まれています。その上、苗場山も平標山も三国山も、それぞれに素晴らしい面があり感動しました。私たちの見た、まだ登っていない 360°の山々にも、素晴らしい面がたくさんあるのだと思うとまた新潟に来て、その山々に登ってみたいです。

体力の面でも知力の面でも、実際まだまだ至らなかった私達が、三日間登り切り、また新潟で山を登りたいと思えたのも仲間の存在があったからだと思います。まず、パーティーの仲間の存在。知力面では、大会前に問題を出し合ったり、体力面では仲間がバテそうになったとき励ましあったりして乗り切る事ができました。そして、他の

パーティーの存在も助けになりました。「お疲れ様です。」という言葉や、真剣な姿がなければ、私達はここまで乗り切ることはできなかったと思います。

私達はインターハイを通し、改善点を見つけることができただけでなく、山の素晴らしさや仲間の大切さなど深い感動も得ることができませんでした。まだ一・二年パーティーなので、改善点をなおし、来年の大分のインターハイに向けて練習して、山をもっと楽しみたいと思っています。

Ｂ隊５班　栃木県　真岡女子高等学校

隊長、副隊長や自衛隊の皆さんをはじめ新潟県の皆さん、高体連の皆さん、など多くの人の支えがあり、この大会での登山を安全に登りきることが出来ました。ありがとうございました。

１番輝くメダルを首にかけるという同じ目標をもった高校生と共に競え合えたこと、自分と同じように山を愛している人に出会えたことに感動しました。また、全国の沢山の仲間に出会えたことが本当に嬉しかったです。登山という今まで励んできたスポーツがもたらしてくれた出会いだと思います。今まで以上に山が大好きになりました。もともと登山は競い合うスポーツではないけれど、今回の大会はとても良い経験になりました。楽しい山行が出来ました。競技である山行のなかですが、楽しい時間を過ごせたことは私達の山人生の思い出として輝き続けると思います。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

Ｂ隊５班　静岡県　富士宮西高等学校

私は２年連続でインターハイに出場しました。天気図と登山行動は自分が思っていた以上に緊張していたみたいで、審査が終わったらどっと疲れが出ました。今は、ただ感謝のみです。インターハイメンバーとしてここまで成長させてくれた先生、家族や応援してくれた方々に感謝して、自分もたくさんの方の役に立てるような人になりたいです。本当にありがとうございました。

（後藤　優稀）

私は今年初めてインターハイメンバーに選ばれ、チームのみんなで力を合わせ県予選を勝ち抜き、この地にたどり着きました。そして大会でよい結果が出せるように準備をしてきました。しかし、大会当日しっかり心の準備をしてきたつもりでしたが、予想外に緊張してしまいました。その為いつも通りに動けない時もありましたが、三人の仲間とこれまでの時間を信じて頑張りました。また、大会では役員の方々の手厚い援助に感動しました。そして、このような恵まれた中であるので、精一杯に力を出すことが私達にできる恩返しであると思いました。さらに、この大会では全国の登山をする仲間との出会いがありました。これには多くの刺激を受けました。結果として、この大会で多くのことを学び、頑張る事が出来ました。このような経験が積めたこの大会に感謝です。

（望月　香菜子）

私はインターハイに出るのは初めてで、とても不安だったし緊張していました。けれど今、大会が終わってみるとこの不安とか緊張感も全てとても貴重な体験ができたと思います。３日間テントで過ごし、寝るまで審査が続けられるので、体力的にも精神的にも気が抜けない状態でした。はじめは自分達のことで精一杯でまわりをあまり見れなかったけど、だんだんと設営隊のみなさんや、地元の高校生がテント場で大会を支えてくれていることが目に入り、自分達がこの大会を経験できるのも、いろんな人の支えがあったからこそだなと思いました。結果はどうあれ、自分達が練習してきた成果を出せて、全国大会の雰囲気も味わえて、大会を支えて頂いた方々に感謝したいです。ありがとうございました。

（青木　麻優）

私は今年初めてインターハイに出場しました。一日目の設営、炊事審査では全国から集まった沢山の選手達の中で行う、初の審査でとても緊張しました。でも、その時にあった交流会で、他の一緒に頑張っていく仲間たちと話ができて、結構緊張が解けました。本当に全国の色んな県から新潟に来ているんだなと実感しました。二日目の苗場山コースでは、一番距離が長かったけれど、最後にドラゴンドラに乗ることができました。そこから見える景色はとても綺麗でした。三日目の平標山は上の方の天気も良く、隊長さんが話されたように、花がとても綺麗に咲いていました。四日目

の三国峠では、急登が多く続いたけど、無事に登ることができて良かったです。山行や審査だけでなく、四日間全体で、全国でしか経験できないような貴重な体験と思い出ができました。

（中里　春香）

Ｂ隊５班　鳥取県　鳥取西高等学校

苗場山はとてもよい山でした。下見のとき晴れていたので、美しい山頂をみることができ新潟を堪能しました。本番のガスっている景色も神秘的でした。平標山では体力が心配で登り切れるか不安でしたが、無事にみんな登ることができ、チームワークが深まりました。ゆっくり進んでもらったのもありがたかったです。この二つの山は、トイレが少なかったのがきつかったです。三国山は細かなアップダウンが少し辛かったです。

幕営隊の方々には本当にお世話になりました。ごみの処理から拍手での出迎え、サンプリング等の世話、挨拶もとても嬉しかったです。特にお風呂の案内係りに居られた方々の姿勢が本当にきれいでした。気持ち良く過ごすことができ、山にのぼっているときも苦しい時はキャンプ場に帰るのが楽しみでした。

インターハイで色々な県の人とふれあえたのも良い経験になりました。方言の違いなどもあっておもしろかったです。トイレが迫った時に人は仲良くなれることがわかりました。辛かったのは四日間同じ山シャツで過ごしたことと、下着がお風呂に入るまで変えれなかったことでした。また、自分の地元では体験できなかった、山の風景や、人とのふれあい、人の優しさなど、自分の県についてよく知らなかったことを実感しました。

行動隊の方々にもお世話になりました。登坂先生と片野さんと途中にお話しをさせてもらったのもとても楽しかったです。登坂先生はまだ鳥取と島根と愛媛の山には登られたことがないそうなので、ぜひ鳥取に来てもらって鳥取西高校の裏手にある久松山に登ってもらいたいです。ここでもあまり鳥取の山を紹介できないのが悲しいので、これからもっと地元について調べて、また色々な山に登ってみたいと思います。

それから宿舎も素晴らしかったです。ご飯も豪勢で毎回おなかいっぱい食べてしまいました。お風呂も気持ち良く、部屋から見える稜線も美しかったです。また駐車場でテントを広げる練習をさせてもらったり朝ごはんの時間を早めてもらうのも嫌な顔ひとつせずやって下さって本当にありがたかったです。

勉強不足、知識不足、体力不足を痛感しましたが、次の大会に向けての意欲が高まりました。ぜひ大分できれいな火山地帯を見たいです。

今回のインターハイでは多くの方にお世話になったので、その皆様にお礼が言いたいです。ありがとうございました。

Ｂ隊５班　大分県　竹田高等学校

今回の大会は、私にとって最後のインターハイであり、最後の大会でもありました。大会中のプレーで後悔することはありますが、自分にとって最高の大会になったと思います。来年のために、後輩にアドバイスしていきたいと思います。ありがとうございました。

（一宮　未晴）

私にとって最後のインターハイでしたが、無事に三つのコースを登りきることができてとてもうれしく思っています。役員の方々もとても親切で、時々話したりしたのですが楽しかったです。少しトイレが少ないことに苦労したのですが、とても良い大会だったと思います。ありがとうございました。

（國廣　愛理）

新潟県のインターハイでは、行動隊の人たちなどが親切で助かりました。来年は大分でインターハイがあるので、今回の経験を活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

（古嶋　天）

今回のインターハイは、初めてですごく不安でした。しかも、先輩達は今年が最後なので足をひっぱらないか心配でした。しかし、終わってみると三つの山すべてを完登することができました。今回の大会で課題が見つかったので、改善し来年の大分大会に活かそうと思いました。ありがとうございました。

（吉岡　理紗）

大会期間中は多くの役員の方々に支えて頂き、感謝しています。ありがとうございました。役員の方々の「この大会を成功させたい」という気持ちが本当に伝わってきました。準備するためにたくさんの苦労があったと思います。お疲れさまでした。

新潟の山に登るのは初めてで、山登りの経験が少ない私にとっては少々不安もありましたが、眺望の素晴らしさ、ドラゴンドラの空中散歩など思い出深い登山となりました。選手もケガなく３日間の行程を終えることができました。お世話になりました。

（監督：脇　雄治郎）

Ｂ隊６班　宮城県　仙台三桜高等学校

今回、全国大会に出場して、全国の山仲間と交流できたことは、とても貴重な体験となりました。また、普段の活動ではなかなか登ることのない新潟の山を登ることができ、宮城県内の山とは異なる気候条件や風景を感じることができました。その中でも、苗場山の雲尾坂を登り切ってから見えた美しい湿原の様子は、他では見ることのできないような素晴らしく、強く心に残っています。

三日目に登った平標山では、花の百名山ということだけあって、色とりどりの花々が咲き誇り、その景色を見ながらの稜線歩きはとても気持ちが良かったです。

四日目の三国峠コースでは、登山行動の三日間の中では最も天候に恵まれ、二日目や三日目に登った苗場山や平標山がきれいに見えて、これまでの行動を振り返り、改めて新潟県の山の厳しさや、美しさを感じとることができました。

三日間の登山行動を通して、パーティーの絆がより一層深まり、高校生活の中でも一生の思い出となり、滅多にない経験をすることができました。

このインターハイを通じて、得られた課題を後輩たちにしっかりと伝え、これから部活動を行うにあたって、他県の良いところを参考にし活かしていって欲しいと思いました。また、宮城県の代表としてこの大会に参加できたことは結果以上に意義があるのだということに気づき、自分達の人生の中で大きな財産となるに違いないと思いました。

インターハイを運営するために、数年前から準備をして下さった湯沢町の方々や、設営隊として選手をサポートして下さった新潟県の登山部の生徒の皆さん、行動隊として私たち選手の山行を支えて下さった先生方やＯＢ・ＯＧの方々、医師や看護師の方、自衛隊の方々など、大勢の方々のおかげで、安全に登山ができ無事に行動を終えることができました。本当にありがとうございました。

Ｂ隊６班　埼玉県　浦和第一女子高等学校

インターハイ登山大会に出場するのは、学校としても本当に久しぶりのことでした。装備、読図等の審査では良い成績が残せないかもしれないという思いがあったので、体力面では頑張ってしっかり他都道府県の選手について行き、登り切ろうと考えていました。しかし残念ながら９日の朝病人が出てしまい、平標山コース、三国峠コースを登ることができませんでした。自分達の体調管理の杜撰さが悔やまれます。設営隊の方々をはじめ、多くの方にご迷惑をかけてしまいました。本当にお世話になりました。

苗場山コースは、霧が深くかかっていてときどき雨も降りましたが、登りやすくとてもきれいな山でした。様々な花が咲き山頂付近の湿地も広くて気持ちの良い風が吹いていました。下りは雨が降っていたこともあってかなり滑りました。歩き方にもう少し気を遣えればと思います。ドラゴンドラは楽しかったです。ドラゴンやクマの置物を見ました。パンダルマンが乗っているゴンドラともすれ違い、登山の疲れが吹き飛びました。

そして平標山コースは登ることができませんでした。しかし手持無沙汰なメンバー三人を連れて、本部の先生方が幕営地後方のゲレンデを上がって、たけのこ山手前まで案内して下さいました。苗場山にも劣らない程花が咲いていて、蝶を見ることもできました。途中で食べたいちごはすっぱくておいしかったです。ゴンドラ乗り場まで登って下山しましたが、やはりゲレンデなので傾斜がきつく少し大変でした。でも非常に良い思い出ができたと思います。引率して下さった本部の先生方、本当にありがとうございました。

三国峠コースの日は、本調子でないメンバーがいましたが登ることに決めました。隊行動での急登は前の学校に遅れまいと努めることで良い訓

練にもなったと思います。結局体調が優れず毛無山にも登れずに下山になってしまいました。

行動隊、設営隊やたくさんの方にご迷惑をかけてしまい、お世話になりました。看護の方や自衛隊の方にも大変お世話になりました。結果がどうあれ、私たちが無事に下山できたのは運営に携わった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。また新潟の山に登りに来ようと思います。良い大会の場をありがとうございました。

Ｂ隊６班　石川県　七尾東雲高校

今年のインターハイは私達にとって最後の大会となりました。私達は去年もインターハイに出場しましたが、思うような結果が残せず悔しい思いをしました。そのため、今大会ではその悔しさをバネに自分の担当する区分は完全にできるように努力してきました。

初日はインスペクトで各メンバーが良い点数を取れるように気持ちを引き締めて臨みました。

２日目は「百名山」の１つである苗場山に登りました。この山はチーム行動でした。去年は時間内に登ることができず悔しい思いでいましたが、今回は時間内に登ることができ良かったです。

３日目は「花の百名山」の１つである平標山に登りました。メインザックでの行動で、距離も長く、体力がもつか心配でした。メンバーの内、誰ひとりリタイアせずに登りきることができました。

４日目はいよいよ大会最後の日です。昔、上杉謙信などの偉人が登った三国峠を登りました。距離は短いながらも急な斜面が多くあり、大変でしたが、皆で登ることができ良かったです。

どの山も辛く大変でしたが、４日間の登山行動を終え、やりきった達成感と共に悔しい気持ちも残りました。それは下見で読図の調査をしたにも関わらず半分以上落してしまったことが悔しかったです。しかし、チーム４人全員が、全行程を無事に終えることができ、良かったです。

最後に、今大会が私達にとって高校生活最後の部活動となり、良い思い出となりました。
家族、顧問の先生方、今まで色々と迷惑をかけたりお世話になりました。そして、大会に関わったすべての人に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

Ｂ隊６班　京都府　京都産業大学附属高等学校

今年の新潟でのインターハイは,登山中に見た素晴らしい景色やボランティアや地域の方の支えもあって、とても気持ち良く終わることができました。一年ぶりに他県の選手とも再会できたり、また新しい交流が生まれたりと、充実した大会 4 日間でした。昨年の東北総体では体力面でチームの足を引っ張ってしまいましたが、今年は気持ちにも余裕があり、登山を楽しむ事ができました。私は 3 年生なので来年はもう出場できませんが、この総体で培った経験を今後に生かしていきたいと思います。

（門谷　朋美）

２年連続出場出来て良かったです。近畿は登山部がマイナーで、試合もほとんど敵が居ないので、こう言ったインターハイなどに来ると皆な凄く真剣に取り組んでいるんだとビックリさせられ、自分も真剣に取り組まないと恥ずかしい!という気持ちにさせられます。4 日間という長いようで短い間、他県の人達と共に競い合えたり交流出来たりと、凄く充実したインハイでした。他県と友達になれる貴重な機会、本当にインハイに来れて良かったです!!今年は去年よりもしっかり歩け、テストなども良かったのに何故、順位がほとんど変わってないのでしょうか・・・？チームの皆でなかなか上の方にいくんぢゃないかと言っていたにのに…(笑)　次の大分の試合は出れないけど、また、新潟の山も大分の山も登りに行ければ良いな、と思います。楽しかったです。

（池田　悠）

Ｂ隊６班　山口県　防府高等学校

私たちは、この大会に山口の代表として参加できたことがとても嬉しいです。

予選では、自分達の持っている力を十分に出しきれず、僅差で勝てたけれども悔いが残る試合でした。インターハイでは、自分達の力を出し切ろうと、予選での悔しい気持ちを胸に、毎日厳しい練習をしてきました。何度も、逃げだしたくなることがありましたが、チームで声をかけあったり、家族や友人、学校の先生方などたくさんの人たち

が応援して下さったおかげで、ここまで頑張ることができました。

苗場山コースのチーム行動では、思うように前に進めず悔しかったですが、チームが離れずに１つにまとまってゴールができたので良かったです。苗場山では、ガスが多く景色はほとんど見れませんでしたが、他では見ることができないお花畑で、シモツケソウやアキノキリンソウなど、どれも綺麗な花ばかりでした。ドラゴンドラから見える、二居調整池が地図の形にそっくりで、とても青かったことに感動しました。

テント設営では、練習でテントが立つまで１分３０秒かかっていたのが、たくさん練習を積み重ねて、本番ではどのチームよりはやく、４０秒台で立てられたので良かったです。

役員の方々が、毎日朝早くからお見送りをしてくださったことに、すごく感動しました。また、サンプリングやゴミの後片付け、お風呂などの誘導をしてくれたおかげで、私たちは気持ち良く幕営地で過ごすことができました。

最終日に、コース隊長が１つ１つの班に声をかけていたり、班長や副班長は私たちのことを気遣ってくれたことに、すごく優しさを感じました。また自衛隊の方々が、三日間後ろから見守ってくださって、安心して登ることができました。

一緒に登った仲間とも、コミュニケーションをとって交流を深めることができました。いろいろな方々に支えてもらったことに、感謝しています。

今後は、知識のテストで何点か落としているので、最後のつめをきちんとすることと、この体験を次の世代に伝えて宝物にしていこうと思います。また、このインターハイで交流を深めた仲間とも、これからもつながりを大切にしていきたいです。本当にありがとうございました！！

Ｂ隊７班　群馬県　高崎女子高等学校

今回のインターハイは、私にとって２度目でした。前回は先輩の背中を追いかけることだけに必死でしたが、今回のインターハイに向けては、3年が率いるだけではなく、4 人全員が力を出しあって共に成長してきたように思います。当日の登山行動では、多くの人の支えや応援があったため、楽しく、気持ちよく過ごす事が出来ました。ありがとうございます。新潟の山の美しさを目の当たりにして、もっと山が好きになりました。

（松岡　奈津美）

今回の大会は予定時間と大差なく日程が進んだため４日間行動しやすく充実した日々となりました。またトイレや水場がきれいだったことも快適な生活を送れた大きな要因だと思うので、設営隊や関係者の皆様に深く感謝したいお思います。このインターハイを通して山のことから人生のことまで本当に多くのことを学びました。貴重な体験をする機会を与えてくださった全ての人に感謝します。ありがとうございました。

（宮川　あかり）

今回初めてインターハイという大きな舞台に出場して、たくさんの方々の手によって安全な山行が可能になっていることを実感しました。本来登山は全て自分達でやらなければいけないものですが、今回のように恵まれた環境で新潟の山に嬉しく思うと共に、お世話になった方々へ感謝でいっぱいです。このインターハイで感じた気持ちを忘れずに、これからを過ごしていきたいです。

（小林　佳奈）

今回このインターハイを終えて改めて気づかされた点が多々ありました。その中でも最も大きかったことは“感謝の心”です。今回このように私たちが何事もなく３日間新潟県の雄大な山々を楽しむことができたのは、行動隊や設営隊をはじめとする役員の方々や自衛隊の皆様のたくさんのご協力があったからこそだと思いました。支援してくださった皆様には言葉に表わせない程の感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。

（城田　曜子）

Ｂ隊７班　長野県　松本県ヶ丘高等学校

私にとって全国大会は１年時からの目標でした。女子が１人だった一昨年から早２年、やっと男子とアベック出場できました。初めてで何も知らない私たちに男子はアドバイスをくれ、共に成長することができました。高校生活最後の夏を７人の仲間とともに過ごせたことは、一生の思い出になりました。競技で培った技術等をこれからの

山登りに生かしたいです。最後に、頼りない私についてきてくれた3人と今まで支えてくれた全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

（横山 葵）

嵐のように過ぎ去っていった。それが私の全国大会に対する印象です。

全国からやって来た、初めて顔を合わせる仲間たち。普段は来ない土地。“インターハイ”という、言葉の重さ。いつもと違うことだらけで、大会中は毎日が様々な刺激に溢れていました。あっという間に終わってしまいましたが、この4日間のことを一生忘れることはできないでしょう。

このような貴重な経験をさせてもらえた事に、深く感謝します。

（村上　智水）

４日間に渡る大会が終わりました。今振り返ってみると、この大会の前までは山の悪い面しか見ていなかったような気がします。でもこの大会を通して、山のいいところをたくさん見つけることができました。苦しくて辛いこともあったけど、そんなこと消しちゃうぐらいこの４日間楽しめました。17歳の夏をこんな素晴らしいものにしてくれた仲間・先生、応援してくださった方々、大会運営にあたってくださった方々、皆さんに感謝します。

（小澤　夏子）

新潟で行われた全国大会。そこで私は多くのことを体験し、学びました。今では県大会から全国大会まであまり時間がなかったように感じます。全国大会へむけての準備では、県大会を経験しましたが、まだ準備等で分からないところがあり心配が絶えませんでした。そのたびに先輩方や周りの方に助けてもらいました。

周りの方々のおかげでこのような貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございました。

（眞島　千晴）

Ｂ隊７班　徳島県　城ノ内高等学校

今回のインターハイは、自分がキャプテンとして出場したので、去年とは全く違った感じだった。三つのコースに登って、新潟県の山を少し知ることが出来たように思う。全力を出し尽くせたので良かった。応援してくれた皆さんに感謝したい。

（武田　真帆）

私にとって今回が最後のインターハイとなりました。今回登った苗場山が初めての 2000m超えの山となりました。関西で、一番高い石鎚山でも 2000mを超えていないので、いい経験になったと思います。苗場山の山頂は、大会本番ではガスで周りが見えませんでしたが、下見で雲尾坂を登って、山頂に辿り着いた時、今まで見たことのないような景色が広がっていて、違う世界に来たような感じがしました。苗場山に登れて本当に良かったと思います。最後に新潟でこのような素晴らしい山に登れて良き思い出になりました。

（島田　佳南里）

私にとって今日は二回目のインターハイでした。去年は後輩の立場でしたが、ことしは先輩としてしっかりやっていこうと思いました。苗場山は雲尾坂を登ると別世界のようでとても綺麗でした。高校最後の登山を新潟の素晴らしい山々ですることができて良かったと感じることができました。

（出口　優希）

私は、初めてインターハイに参加しました。全てが初めてで、先輩や先生たちに迷惑をかけてしまうときもありましたが、新潟でインターハイに参加できて、とても良い経験ができました。苗場山は今まで登ったことのない頂上で、下見で初めて見た時は感動しました。平標山では、平標山の家に着いて後ろを振り返った時、自分はあんな大きい山を登ったのかと驚きました。最後に、新潟で経験したことを、次に向けてまた頑張っていきたいと思います。

（真鍋　はるか）

Ｂ隊７班　鹿児島県　鶴丸高等学校

すうっと深呼吸する。山の空気は本当に澄んでいて，普段私たちが生活している場所の空気とは比べものにならないくらい気持ちがいい。このことを友達に話してもあまり違いを分かってもら

えないが，山岳部の仲間はもちろん共感してくれた。山岳部という少しマニアックな部活動で３年間を共に過ごしてきた４人は，私にとって特別な存在だ。

同じクラスの仲良し 4 人組で入部した山岳部。入部以来の夢だったインターハイに４人で出場することを果たし，引退することができた。最初は簡単に達成できるだろうと思っていた目標だったが現実は厳しかった。部活に対する意識の違いや体力の差，山行へ挑む技術など，課題点が見つかる度に話し合い，改善するようにした。そういった１つ１つの積み重ねが県大会優勝，そしてインターハイへとつながったのだと思う。

インターハイの舞台となった新潟県苗場山系のコースを１歩ずつ踏みしめながらこの３年間を振り返った。思えば，1･2 年の頃は先輩に頼りがちで，自分 1 人のことで精一杯だった。しかし，今となっては多くの後輩にも恵まれ，私たちが鶴丸高校山岳部の歴史をつくる立場へと成長することができたと思う。

苗場山の雄大な自然を目の前にして，自然の偉大さを実感した。また，この経験が私たちに美しい景観を失うことはあってはならないことだと再認識させてくれた。

いつも私たちを温かく迎えてくれた山々。大会運営に携わってくださった役員の方々。すれ違うたびに挨拶を交わしてくださった登山愛好家の皆さん。時に厳しく，時に優しく私たちを叱ってくれた先生。いつも山岳部の活躍を楽しみにしてくれている先輩方。私たちを陰ながら支えてくれた家族。そして，栄光の懸け橋に向かって共に走ってきたチーム鶴丸女子隊。山岳部の活動を通じて出会ったすべての人に感謝したい。ありがとう。

Ｂ隊８班　北海道　北星学園女子高等学校

北海道に暮らす私達にとって新潟県はとても遠く異国の地とさえ思います。開会式、引き継ぎ式、今回が自身としても、部活としても初出場ということもあり、はじめてのことばかりで戸惑ってしまいました。私達にはもはや、北海道代表の風格はどこにもなく、まわりの雰囲気にのみこまれる結果となってしまいました。今までの常識、全道大会での当たり前はここでは全く通用しないことに戸惑い、自分たちの思うようにはいきませんでした。北海道とは植生も大きく異なり、普段なら歩くことも忘れるくらいに感動するような、あたリ一面に花が咲き乱れている様子も、審査員が遠くから見えているために、楽しむ余裕がありませんでした。そんな時、部長としての自分には今何ができるかを必死に探しました。こんなとき先輩なら、「自分に負けるな！」そんな言葉で励ましてくれると思いました。今は自分がみんなに勇気を与える立場だと思い、自分自身も楽しむことに決めました。大会が終わって、結果はあまり伸びませんでしたが、その分、得たものの大きさに感動しています。具体的にいうと、人との出会いです。同世代の山ガールたちと山を一緒に登った経験は一生の宝です。大会中の設営隊の方々の優しさにも感動しました。私はもう引退を迎えますが、これからももっと多くの高校生の登山者が増えて、高校登山大会をより賑やかなものにしてほしいです。

（麻田 涼子）

私たち北星の 4 人にとって未知の全国大会は、普段の登山とは全くと言っていいほど異なるものでした。200 人以上もの人が蟻のように連なって山を歩き、その人々を見るとなぜか面白く感じました。この光景は全国大会でしか見られないし、体験できないことでした。大会中は予想よりも暑くなく、調子を崩すことなくメンバー4 人で最後まで登山行動を終えられたことはとても良かったです。また、いつもの登山と変わらず楽しく登れたことが全国大会に参加して私にとって最高の思い出です。全てが初めてでなかなか大会の雰囲気にも馴染めず、何をするにも時間がかかり、登山中よりも大変だったことが印象的でした。ですが、班長さんや副班長さんと短い時間の中で親しくなることができ、登山行動中は色々とお話しできて楽しかったことを覚えています。多くの楽しみだけでなく、時には辛さや不快を感じることもあり、登山の経験だけでなく人として成長することができたいい経験でした。最後に、全国大会に携わり、私たちに良い経験を与えてくれた大勢の人々に感謝したいです。ありがとうございました。

（竹谷 未来）

今年のチームは入学当時から 3 年間、4 人で仲良

く山に登ってきました。全道大会では、豊富な登山経験に加え、大会の出場経験、そして何よりチームワークの良さを武器に、過去の先輩たちが果たすことのできなかった最優秀賞を成し遂げました。北海道の山はたくさん登ったけど、本州の山に登る機会はめったにないことなので、インターハイに参加できたことで、植生の違いや永遠と続く山並みに驚き、感動しました。新しいことは他にもたくさんありました。たとえば他校の選手たちです。夏合宿の苦労話やそれぞれの県の山岳部事情、晩御飯のおかずなど、同世代の山ガール、山ボーイたちと交流できたことは本当にいい経験になりました。競技としての登山ではいつものような自由はないので、ただ単純に山を楽しむことはなかなか難しいと思います。
そんな中でも、全国には素晴らしい登山者がたくさんいることがわかり、私にはまだまだ修行が足りないことを痛感しました。同時に卒業しても登山は一生の趣味にしたいと改めて感じました。インターハイが終わると、このチームでの登山も最後となるため一つひとつの山が大変思い出深いものとなりました。この3年間をインターハイという大舞台で締めくくることができて光栄です。北海道には、大自然がつくり上げた素晴らしい登山家の卵がたくさんいます。インターハイはそんな高校生たちの憧れであり続けてほしいと思います。

（中村 マリア）

「がんばったら、うちらも全国行けるんかなぁ。」そんな話を4人でするようになったのは、いつごろからだったでしょうか。あの頃の漠然とした思いが現実になったということに改めて驚かされます。高校生活最後の登山かもしれないと、みんなで思い切り楽しんで登った全道大会で最優秀賞を頂き、北星史上初の登山全国大会への切符を手にすることとなりました。初めての全国大会であたふたしながらも、「私たちは私たちの登山で楽しむだけだ」と思いつつ新潟に向かいました。しかし実際の大会になると、いつもとまるで違う雰囲気や登山スタイルになかなかなじめず、「北星らしさ」をなかなか出せなくて悔しかった部分もありました。でも何日か過ごすうちに他県の友人ができたり、班長さん副班長さんと親しくなったりと全国ならではの楽しみも味わえました。また、登山大会はこんなにもたくさんの人に支えられているのだと知れたこともとても大きな経験でした。行動隊・設営隊の方々や地元の高校生のみなさんには感謝でいっぱいです。帽子を振っての見送りや拍手での出迎えは、少し気恥ずかしくもあつたけれど、とてもあたたかくてホっとした気持ちになりました。大会順位はかなり下ではありましたが、いままでずっと一緒に登りつづけてきた3人の仲間とこの舞台に立ち、新潟の山に登れたことは本当に幸せでした。高校生活最後の夏に一生の宝物ができました。ありがとうございました。

（榮 みやこ）

Ｂ隊８班　千葉県　幕張総合高等学校

今回の登山大会出場にあたり、登山隊長さん、Ｂ隊のみなさん、設営隊のみなさんをはじめ、本当にたくさんの人たちにお世話になりました。こんなに多くの方々に支えられているからこそ大会が成り立ち、私たちが登山できるのだなと感じました。ありがとうございました。

私たちは千葉県総体優勝後、まず最初に感じたのは不安でした。過去にインターハイに出た先輩たちや先生方から話を聞く度に、私たちなんかに出来るのかな、と思ったりしました。しかし、全国総体に出場することの出来ない他の学校の分、また、全国総体出場を願いながら惜しくも出場することの出来なかった男子の分もと思い、精一杯練習と準備に励みました。そして、これが今のメンバーで出場できる最後の機会だったので、出来る限りのことを一生懸命やってきました。全く初めてのことに全員が戸惑うことも多くありましたが、それを支えてくれたのは顧問の先生方を始めOBのみなさんや部活の仲間、また様々な先生方でした。今回の全国総体出場は私たちだけでは出来なかったことです。自分たちは沢山の人に支えられているんだということを改めて感じました。これだけ多くの方々が私たちを支えてくれ応援してくださったことを本当に嬉しく思います。それだけに結果を出さなくてはと思い少しプレッシャーも感じていましたが、全国という場で6位入賞を果たし、応援してくださった方々に少しでも恩返しが出来たことを嬉しく思います。また、私たち自身が全国総体というものを、期間中

は思ったより緊張せずに楽しむことが出来ました。そして、新潟の山々を楽しみ、湯沢町を好きになり、とても良い経験をすることができました。まだまだ全国の場でやりきれなかった部分があります。それをバネに頑張り、また全国の場に行きたいと思いました。まずは来年、また県大会優勝を目指します!!

Ｂ隊８班　愛知県　旭丘高等学校

新潟の山に初めて登りました。普段の山行と違い、全国大会では普段より勉強して山のことを知るし、山に登るたくさんの仲間と一緒に行動します。普段ではできない良い経験だったと思います。山がもっと楽しくなる経験だと思います。全国大会はもう出られないけど、もっと山を知って山の仲間と出会って、今よりもっともっと山を楽しみたいです。

（木本　百合子）

私はチームの中で一番体力が弱いので、全国大会という場についていけるかとても不安でした。でも、迎えて下さった大会の役員の方々が本当に新潟の山を楽しませようとしてくれていて、すごく楽しく登ることができました。特にお花畑や池塘の幻想的な空間を歩けたことは素敵で素晴らしい体験でした！あの風景はきっと自分の中で生き続けてくれると思います。役員や設営地でお世話をしてくれた皆さん、顧問の先生が一言も文句を言わずに応援して下さっていた姿に感動し、学ばせて頂きました。ありがとうございます。今回一緒に行ったメンバーと前より仲良くなれて嬉しかったです。今回の大会の全てに感謝しています。ありがとうございました。

（中村　寧子）

今回の大会で山の知識も増えたし、ホテルやいろんな県の仲間との交流もあり、とても楽しかったです。なにより大きいケガもなくみんな無事に下山できたのがよかったと思います。全国大会で貴重な体験ができたのは、下見から大会に関わること全般準備してくださった先生や新潟の人達や親など周りの人のおかげなので感謝したいと思います。この貴重な体験をこれからいろんな場面で活かせるといいなぁと思います。ありがとうございました。

（小口　澄香）

今回の全国大会で、多くの事を学べたと思います。私は「天気図」を担当していて、ワンダーフォーゲル部に入っていなかったら、自分から天気図をとろうとか、もっと上手く天気図を書いてみたいと思う事はなかったかも知れません。なので、この大会でこの様に自分から１つの事をより上達したいと思える良い機会をもらったと思っています。あとは、班長の竹内さんや副班長さんの歩き方は、サブリーダーである私にとても参考になりました。ありがとうございます。大会での経験をもとに、これから頑張っていこうと思います。本当に良い経験をありがとうございました。

（小木曽　愛）

Ｂ隊８班　岡山県　就実高等学校

私は今回で三回目のインターハイとなりました。今回の登山行動はいつもより長く足場も悪いとこがあり大変でした。しかし、苗場山山頂に登りきった時、視界を遮るものは何もなく一面に広がる湿原に感動しました。このメンバーで大会に挑めたのも一期一会だと思いました。

体調を崩すことが多く、リーダーなのにメンバーに迷惑をかけることがありました。ここまで来ることができたのは先生、家族、下見でお世話になった民宿の方、応援して下さった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。今度は冬にスキーに行きます。

（黒川　友貴）

今回は同じメンバーでのインターハイでした。今年は天候もよく、楽しく歩くことができました。苗場山では祓川駐車場からかぐら第一高速リフト降り場までのチーム行動がありました。山頂手前のお花畑は幻想的でした。三日目の平標山ではメイン行動でした。晴れていて一ノ肩付近のお花畑はとても綺麗で疲れを癒すことができました。四日目の三国峠では審査が終わった途端みんなの笑い声が響く登山となりました。

（竹内　杏奈）

今回のインターハイで私たちは二回目となり

ます。昨年と同じメンバーで出場できるチームは多くはないと思います。もちろん昨年より良い結果を目指し、一生懸命練習してきました。その努力が報われたのか昨年よりも余裕が持てたと思います。景色も堪能でき、昨年の自分より大きく変わる事ができました。来年度のインターハイでも変われたな、と思えるように頑張ります。

（赤木　那奈）

私は、今年のインターハイが二回目となりました。昨年と同じメンバーでの出場となり、前回よりもより良い成績を出せるよう日々練習に努めました。平標山は、花で有名と聞いていたのですが、本当に見たことのないような花が一面に咲いていて、とても心に残りました。また、新潟の山々は天候が良くても悪くても違う良い顔をもっていて、下見の時から驚きの連続でした。今年も本当に最高のインターハイでした。また来たいです。

（三尾　祥）

Ｂ隊８班　福岡県　修猷館高等学校

今回の新潟でのインターハイで、前回出場した時よりもたくさんの事を学ぶことができたと思います。今までは、頑張っているつもりでも心の隅で先輩に甘えてしまっている部分がありました。しかし、三年生になると頼れる先輩がおらずその上後輩がかつてない程入部してくれたということで、自分がいかに今まで適当に部活をしてきたかを思い知らされました。そのせいもあり、結局最後まで歴代の先輩を越せなかったですが、全力で臨めたので後悔はないです。きっと後輩がさらに良い結果を出してくれるでしょう（笑）

思い起こせば、大変なことが多かった大会でしたが、それ以上に後輩と仲良くなれたのが私にとって頑張れる要素でした。学年に女子が一人なので、後輩にかなりべったりでしたが皆大きな心で接してくれ、特に大会で共に過ごした三人には感謝し切れません。練習を通して四人の仲が深まるのを感じたし、高成績を残すこともそうですが、何より大会を楽しく過ごすにはメンバーの絆が最も大切だと思います。人生で二度もＩＨに出場できた事と、支えてもらった先生、家族、友人に感謝をしたいです。

（竹内　奈々実）

私はどうしてもインターハイに出たかったので、出場できて本当にうれしいです。

大会では今回、自然観察と読図が主な担当だったのですが読図はほとんど先輩にしていただいたので、私は役に立てませんでした。これからの部活で読図の実力をつけていきたいと思います。

また、同じ班の人たちと仲良くなったり、交流会で阿波踊りを踊ってくれたりして、他県の山岳部の皆さんとたくさん話す機会があり楽しむことができました。

新潟県は、一生で行く機会があるかないかの県だと思っていましたが、お米はおいしいし、人は優しいしで、いい場所だなと思いました。いつかまた、苗場山にスキーをしに行ってみたいです。

インターハイでは、設営隊の方々や宿舎の皆さん、班長さん、副班長さんにお世話になりました。先輩、津田さん、小山さん、先生、大会に関わったすべての人、ありがとうございました。

来年もこのインターハイの舞台に立つために頑張ります。

（遠藤　里佳）

今回の苗場・平標・三国峠登山大会のメンバーは４人中３人が２回目のインターハイであり私もその一人であったので、去年の後悔を生かして今年のインターハイに挑みました。

私たちが福岡の地区や県の大会で登っている山は、1000m をきる標高であるために 2000m 以上の山に登るのははじめてだったので、高山植物や頂上からの景色の美しさにはとても感動しました。

今回の大会でやはり 10 位の壁は厚いということを感じたので、来年も予選を勝ち抜いて３度目のインターハイに出場したいと思います。

（津田　彩花）

とても充実した大会期間を送ることができました。まず、3 日間とも美しい山でした。2･3 日目は天候にも恵まれ、植物や景色を楽しむことができました。私はまだ登山をはじめて日が浅く、登った山も少ない分、とても感動が大きかったです。2 日間サブザック行動で、休憩も充分にとってもらえたので、無事に登りきることができたと思います。また、大会自体についても恵まれた環境だったと思います。トイレは清潔感があって、

数も多く、困ることがありませんでした。お風呂は少し混雑していましたが、人数の割にはスムーズに利用させてもらえたと思います。サンプリングの飲料にはとても元気をもらえました。用意していただいた旅館もすばらしいところでした。

　強いていえば、就寝時間が少し早かったと思います。睡眠時間は多くとりたいですが
毎晩準備が間に合わないまま時間がきてしまいました。あと、審査員の方々の厳しい視線を感じました。ですが、全体を通してすばらしい大会でした。来年も参加させていただきたいです。
ありがとうございました。

（小山　里佳子）

登山大会を終えて

登山隊長　中　村　稔　彦
新潟県立長岡大手高等学校

１　はじめに

登山行動最終日、幕営地から宿舎に戻っていくＢ隊のバスを見送りながら、無事に終わったという安堵感。その夜の反省会で挨拶を求められた。呂律が回らない。思っていることが言葉にならない。先催県の登山隊長陣から「準備が大変だぞ～」と言われたにも関わらず残業もなしで準備が進み、大会当日も天候に恵まれ、何もかも順調に進んでいったが、それなりのストレスが自分の体に圧し掛かっていたらしい。

4 月に湯沢町実行委員会に着任したが、その業務も間もなく終了し教員生活へと戻る。振り返ればあっという間の半年間であった。総務委員長はじめ、様々な人たちがレールを敷いてくれた上を進んでいくだけであったが、自分なりに振り返りながら大会について述べてみたいと思う。

２　大会コース・幕営地の決定について

5 年ほど前に新潟での開催が内々に決定し、大会コースの選定に入った。条件としては、3 コースが確保できる、幕営地が確保できる、輸送時間を少なくしたい、開催自治体はできるだけ単独で、などを考えてみた。いろいろな案が出てきたが、全国から参加するのに地元の名も知らないようなマイナーな山ではいかがなものか、とのことで最終的に「苗場」と「妙高」が候補地となった。いずれもスキーの聖地として有名であろう。ただ、妙高山頂には鎖場があり、ここを 250 人規模の一群が通過するのは無理がある、として第 1 案は「苗場」になった。湯沢町も冬季インターハイや冬季国体など全国規模の大会の開催実績もあり、あとは開催のお願いをする段取りとなった。ところが、湯沢町も経済難で最初は断られたが、町の負担金を何とか軽くする条件で開催の了承をいただいた。湯沢町開催で作業が始まったのが 2010 年の 4 月である。もともと新潟県でのインターハイの開催決定も遅れていた。正式に決まったのが 2008 年の 11 月。先催県の予算より大幅に圧縮された予算が条件だったらしい。いずれにせよ一年の半分は雪の中の苗場山なので、使えるのは 2 年間の夏のみ。秋には中央視察があるし、次夏には大会コースのデータを完成させなくてはならない。コース設定が急務であった。

少ない予算で大会を実施するには、人件費をどれだけ抑えるかにかかってくる。そのためには大会自体をコンパクトにまとめ、幕営地を少なくすることが最善策である。そうなると、ＡＢの２隊を同時に幕営させなければならないのだが、そんな広い敷地がどこにあるのか。そこで注目したのが「苗場プリンスホテル」である。選手、監督、中央役員、審査員、大会本部、行動隊など、幕営のほかにも、ほとんどの役員を一か所に宿泊させることもできる。大会運営には打ってつけの宿泊場所であった。しかし、西武グループが営業する、あの「プリンスホテル」である。我々にとってみれば分不相応な施設であるが、運営には必要な施設であるため、断られるのは承知の上で支配人に利用のお願いを行った。「いいですよ。」の一言で我々の不安は消し飛ぶことになる。幸いにも当時は夏季の一般営業もしていなかったことや、町職員とホテル従業員との間に太いパイプがあったことが利用を可能にした大きな要因であった。さらに「ドラゴンドラ」の使用も可能になり、苗場プリンスホテルをベースとした、大会コースが完成することになった。

苗場山コースは今大会の目玉である。急登を登り切った後に広がる高層湿地。最後はドラゴンドラの空中散歩を楽しみながら一気に幕営地まで移動。きっと選手には喜んでもらえるだろう。しかし、この地域は 5 月終りまでスキー場が営業できる日本有数の豪雪地であり、最後まで山肌は白く残っている地域である。他コースは県内の春季登山大会でリハーサルを兼ねて運営できるが、苗場山域は秋季大会でリハーサルを行うしかなかった。しかも、季節営業を

しているドラゴンドラがあり、幕営地から祓川登山口までの輸送があり、さらに秋季大会は1泊なので遠方から出場する学校があるため解散時間に制約がある。それでも2年前の秋季大会で祓川駐車場往復での苗場山コースのリハーサルを行った。各校の協力もあり、ほとんどが顧問の自家用車による参加で登山口まで各校で輸送、参加者総数がおよそ 200 人と、リハーサルを行うには十分な人数であった。残念ながら佐渡から参加した学校は帰りの佐渡汽船の時刻の関係で途中下山となってしまったが、輸送時のタイムロス、大人数が山中を動いた時の様子、雨が降ると登山道は川になる、などコースの問題点を知ることができた。さらにインターハイ前年の秋季大会では、プリンスホテルの協力や、新潟県高体連が費用を負担してくれて、ドラゴンドラを用いた苗場コース全体のリハーサルを行うことができた。

今大会の登山コースは、全体を通してコース整備が必要だった箇所はなかったと思う。平標山コースも三国峠コースも木道が整備されていたり、苗場山コースは環境省の整備計画により前年までに修繕されたりなど、歩きやすかったのではないだろうか。個人的には、危険個所を除き、階段が傾いていても泥沼になっていても、それは登山のエッセンスであり、そこも含めて山歩きを楽しんでもらいたいと考えている。一方で、今回のコース設定で初めて知った事もあった。先催県の報告にもあるように、インターハイ規模の大会を行うには登山道の使用申請を地区の森林管理署に行うのだが、使用予定の登山道によっては手続きが異なってくる場合もある。通常、登山道は環境省から委託を受けて自治体が管理しているのだが、今大会コースの一部は環境省が直轄で管理している区域があり、その場合は国からの貸付扱いとなり有償になる。数千円ほどではあるが、後催県は登山コースの管理状況を把握し、予算化するなどの処置が必要になってくると思う。

３　大会役員と役員研修について

新潟県の登山部顧問数は 100 名ほどいるので、大会役員に関しては高校登山部ＯＢ、ＯＧを含め県内で賄うことができた。まずは、インターハイ経験のある顧問は限られるので、とりあえず「大会そのものを経験してもらう」ことから研修らしきものがスタートした。新潟大会開催前の霧島や青森は、距離的に無理がある。遠方に多数の人間を視察に行かせる費用もないので、08 年の埼玉大会に顧問を派遣することを考えた。しかし、この段階で新潟開催は正式決定しておらず、視察員派遣の旅費も出ない。登山隊長の大石先生と相談の上、正式な視察員エントリーはせず、一般登山客として大会を見学する形で視察を行った。県登山専門部主催の夏山顧問研修を使い、大滝中学校近くの民間キャンプ場でバンガローを借り、毎日往復1時間の食糧買出しと自炊生活を1週間行った。それでも延べ15名の顧問が参加し、その後の新潟大会での重要な存在となっていった。

開催が正式に決まってからは、県高校の登山大会はすべて大会コースで行うようにした。多数の顧問にコースを知ってもらうことと、行動形態を習得してもらうことを目的としたが、県内大会は基本的に班行動で行うので、全国大会で班行動区間を設定しても何ら問題では無かった。皆がコースタイムと班間隔をピタリと合わせて行動できる顧問ばかりである。あとは誰に何の係をやってもらうかを決めることとなる。大会の夜に本部に集まり「この係はこの人が適任」と決めていくのであるが、年度末に見直すこととなる。人事異動。どこの開催地でも悩むであろう制度である。狙われているのかと勘繰りたくなるほど、重要なポストに設定した顧問が異動していく。他の学校の登山部であればまだいいが、大概は登山部とは関係ない学校、教育センターや他県の研修センターへの出向など、どうやっても仕事をお願いできない所ばかりであった。それでも直前の異動では影響がなかったのは幸いであった。

大会用の正式な役員研修は、前年の秋に 1 回と、直前の 7 月に 2 回行った。前年秋はコースチェックと無線の確認。7 月 1 回目は休憩ポイントと行動の確認。2 回目は無線通信を含めた行動のリハーサルを行ったが、いずれも天候には恵まれなかった。それでも「雨天時の行動の研修ができてよかった」といやな顔せず、研修に臨んでもらった顧問の皆様には頭の下がる思いである。

４　大会開催まで

ここで書くにしては、あまりにも不謹慎なことであるが、「大会開催地では何かが起こる」のだろうか。自然災害は仕方がないところもあるが、本県も何かしらの被害を受けた。前年の9月には大雨で、祓川駐車場に至る林道にかかる清津川の橋が流出。苗場スキー場ゲレンデが土砂崩れを起こし、ホテルの１階が土砂で埋まった。大会前の６月には祓川駐車場に至る林道が融雪水のため崩落した。いずれも修復が早く完了したので、大会開催への支障はなかったが、直前に起こっていたら計画変更を余議されなくなっていたところである。

配宿センターの対応にも苦労することとなった。いつまでたっても昔のデータのままで作業をし、宿には連絡しない。仕方ないので、直前にこちらで宿を１軒１軒訪ねて、バス輸送や荷物預かり、クリーニングのお願いに奔走した。ところが翌日に古いデータで配宿センターが宿に説明をしたため宿側で混乱し、その処理をする始末。また、弁当の数量変更もＦＡＸでどんなに送ってもデータが更新されない。そもそも登山大会の宿泊形態や弁当の手配など、他競技とはかなり異なるので、仕方がないところもあるが、それでも配宿センターの対応のまずさには、ただただ閉口するばかりであった。

幕営地の様子が見に行くたびに変わっていたのも驚きであった。ステージが拡幅されている。道路が拡幅されている。ゴンドラのキャビンが置いてある。大会直前に行われるフジ・ロックフェスティバル開催のためであるのだが、予定通りこの場所を幕営地として使用できるのか心配になった。最終的には道路拡幅の影響と水捌けの影響を考慮して、グリッドの切り直しをすることになったが、この先どうなるのか予想もつかない状況にヒヤヒヤしたものである。

５　大会がはじまる

全国紙でも報道されたように、大会直前になり熱中症による事故が立て続けに発生し、その影響で大会役員を変更せざるを得ない状況になった。ここに来ての役員の入れ替えは混乱をきたすので、単純に空いたポストに別の人間を入れ対応することとした。さらに熱中症への対応策を県実行委員会に報告する作業も加わり、土壇場になり今までの順調すぎる様子から状況は一変した。

大会が始まると、あとは天候の変化との対応である。先週までの高温による熱中症と、午後から予想される雷雨が心配であった。開会式でステージ上から窓の外に目をやった。降ってる・・・・。審査中の監督団の居場所は？Ｂ隊のコース隊編成は？幕営審査、炊事審査は？頭の中を様々な対応策が駆け巡った。幸いにも開会式の終わる頃には雨も上がり予定どおりに行動できたが、この後の天気がどう変化するか気がかりであった。夕方になると感染症の疑いがある疾病が発生した。当該生徒はすでに帰県したが、残りのメンバーをどうするかで県実行委員会と相談する。県の回答は残り３名も直ぐに帰県の指示。仕方がないが、これから起こして指示するにしても就寝時間も過ぎているし、移動する術もない。翌朝に指示を伝えることとした。寝たのは０時を過ぎていた。

登山行動１日目。配宿センターのミスなく行動役員の食料は無事に届いているか、総務委員長が早起きして確認してくれたが、時間どおりに届いてくれた。昨日の件で、帰県の指示を出すのと、朝の引継式、出発の様子を見るため外に出る。寒い。監督・リーダー会議でサンプリングを引継式で飲んでもらうと言ったが、この環境では無理だろう。Ｂ隊は指示の伝達ミスもあって、給水は希望制となっていた。飲んだのは20名もいなかった。Ａ隊はそれでも全員に飲ませたが、飲みきれない選手が続出していた。行動隊と相談の結果、朝のサンプリングは今後の気温も考慮し、全員に配布するが給水は希望制とした。

今大会のメインである苗場山コースが順調にいくかが大会成功の秘訣である。ところが、Ｂ隊の祓川駐車場到着の連絡が入らない。計画での誤算であった。計画時は自家用車で移動時間を計測したが、バスは林道では自家用車と同じような速度が出せないのである。単純に1.5倍は時間がかかる。その日のＢ隊の幕営地到着は１時間遅れであった。一方Ａ隊は順調に進んでいたが、無線で監督が転倒し骨折の疑いの連絡があった。帯同してくれた医師の専門が整形外科だったので、その場で診察してもらった。

脱臼とのことで、その場で整復し固定。今後の行動には支障はないとのことで安心した。ところが、この状況は大会本部に配置された県実行委員会の職員から県本部に伝わっていたので、「第１報は入れておいたので、あとの連絡よろしく」の一声で、今晩もＦＡＸと格闘することが決定した。

登山行動２日目。Ａ隊とＢ隊は昨日のお互いのコースを交換して行動するので、前日に情報交換し、予定通りの行動が始まった。両隊とも順調に進んでいると思っていたら、Ｂ隊から班離脱の無線連絡。ほどなくして行動離脱になった。両足痙攣で行動不能との事で、さらにコース最深部での離脱のためヘリでのピックアップの話も出たが、幸いにも症状が回復し、自力歩行で下山させることができた。安堵していたところ、今度はＡ隊から行動離脱の連絡があった。症状はＢ隊より重く、なかなか移動するのに時間がかかったが、それでもゲレンデまで移動してもらい、自衛隊車両、ドラゴンドラ、本部車両を使って無事に救護本部まで搬出することができた。この日は、とても１日が長く感じられた。当然この夜もＦＡＸと格闘することになる。

登山行動３日目。朝から緊急事態が発生。配宿センターのミスで、総監督隊の昼食が届かない。この対応で、総務委員長はじめ本部役員が留守になった。時を同じくしてＢ隊から行動離脱の連絡。場所が近くの浅貝スキー場なので選手回収の指示を出そうと振り向いたが、誰もいない。仕方なく疲れて休んでいる湯沢町職員に起きてもらい回収を手伝ってもらうことになった。その後は両隊とも順調に行動が進み、Ｂ隊の解散式に立ち会った。選手みんなが良い顔をしている。大会に満足してくれたようだ。

６　おわりに

天候に恵まれ、コース変更もなく大会を無事終了することができた。選手の感想文を見る限り、苗場山頂の高層湿地やドラゴンドラに感動した記載が多かったように感じ、狙い通りの成果が出せたと満足している。

今回の大会を行うにあたり、大会役員の皆が良い大会にしようと知恵を出し合ってくれた。それだけでなく、湯沢町の皆が大会運営のサポートをしてくれた。苗場地区の方には大会視察に来る選手の宿泊を受け入れてもらい田代まで送迎を行ってくれた。苗場プリンスホテルには幕営地の利用と施設の使用を快諾していただいた。かぐらスキー場の方には緊急時のリフト運行まで申し出ていただいた。今回携わった方々の誰一人が欠けても大会は成功しなかったであろう。やはり大会成功には人とのつながりが不可欠であるという事である。

最後に、私の年齢は役員の中では若い方である。自分より年上のベテランの先生方に指示を出して動いてもらうことが大会成功にどう影響するのか心配であったが、一生に一回であろうこの業務を任せてもらい、自分の人生の中で貴重な経験をさせてもらった。この場を借りて諸先生方、大会に関わった全ての方に感謝します。

コカ・コーラは2012北信越かがやき総体を応援しています。

2012 北信越かがやき総体　2W10×H297mm　12.01.27